

東葛山の会

創立40周年記念誌「みちしるべ」



2016年総会で全員集合 新中央公民館屋上にて



創立1977年3月

信越トレイル	山脇 多美	34
県連に入るまでのいきさつ	手塚 春雄	35
北海道の思い出	小林 和子	36
思い出	松本 政斎	37
クマに会いました—ツキノワグマが好き	菅谷 真一	38
入会してみた	清水 利夫	39
山道を歩けば	前田 延津子	40
思い出の北海道	村田 綾子	41
山から貰ったタカラモノ	渡辺 實	42
房総ロングハイキング	八巻 幸子	43
期間限定山行	北川 清	44
入会 10 年を振り返って	木村 孝雄	45
ひとり旅の思い出	鈴木 かつ子	46
会との出会い	鈴木 隆司	47
40 年前の私そして今	畑中 眞澄	48
「東葛山の会」に入会して	星田 美恵子	49
山とのかかわり	高木 保	50
登山の魅力と東葛の会に入会した動機	畠山 良智	51
若さ？で登ったけど怖かった！	加藤 延子	52
私の宝物	間瀬 芳枝	53

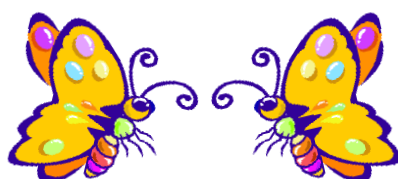
4、海外登山ツアー

海外登山の裏話あれこれ	安彦 秀夫	54
三回目の挑戦『キナバル山』	桐生 千恵子	59
ハルラ山山行記	四元 一成	60
カナディアン・ロッキーに行きたいね	岡部 千恵子	62
バリ島の山と世界遺産巡り	安田 甚二	64
ファンシーパン登山とハロン湾クルーズ	山口 幸雄	65

5、日本百名山登頂

百名山の思い出	五十嵐 朝子	66
おかげ様で百名山達成	村上 和子	67
達成！日本百名山	菊池 光子	68
100 名山を達成して	石塚 洋子	69
登山をはじめて	嶋本 道子	70

6、	県連 50 周年記念房総の山 50 選		
	房総の山 50 選に登る	高見 信明	71
	楽しかった房総の山 50 選	三橋 和子	72
7、	東北ボランティア活動		
	東日本大震災支援活動参加	加藤 延子	73
8、	5 年間の変遷		
	ふれあいまつりと新公民館	四元 一成	76
	東葛山の会・5 年間の出来事と変遷	梅田 尚志	77
9、	公開ハイキング		
	竜ヶ岳 (2013 年) 飯盛山 (2014 年)		80
	竜ヶ岳公開バスハイキング	永木 十三夫	81
	公開バスハイク「飯盛山」	池谷 通隆	82
10、	忘年山行あれこれ	安彦 秀夫	83
11、	資料編 (2012 年～2016 年)		87
	会報表紙のあゆみ		88
	山行記録		94
	会員名簿		112
	役員一覧表		113
	OB・OG 名簿		114
12、	編集後記		115
13、	東葛山の会 40 周年記念事業予定		118



創立 40 周年を迎えて

会長 安彦 秀夫

私が入会したのは、東葛山の会の前身の『鎌ヶ谷ハイキングクラブ』が発足してから半年後でした（1977年10月）。確か、朝日新聞に小さく『会員募集』の案内が掲載されており、問合せ先の方に電話を入れ、折り返し、手塚さんから電話を貰った記憶があります。説明を受け、直ぐ例会に出席し入会しました。

当時の例会は月1回で、出席者は両手で数えられるほどで、時には片手でも間に合うほどの日が続き、『解散したら…?』という声が聞こえてくるほどでした。

『解散はいつでも簡単にできるが、発足するためには、かなりのエネルギーが必要で、一度立ち上げたのだから、心が折れるまでは何とか続けよう!』ということで継続してきました。当時の状況を知る一人として、今日の状況を予測できませんでした。『解散せずにやってきて良かった!』と、改めて感じています。

私が入会した当時と現在で大きく異なる点が、いくつかあります。

その一つとして、年齢が毎年確実に高くなり、山行内容が変わってきていることです。

当時は、テント泊や雪山の山行も多かったのですが、今は激減しています。更に、年齢と共に体力、持久力、判断力、注意力などの衰えが進み、加えて、私を含めて身体に不自由（病気）を抱えている人が多くなってきており、山に限らず、日常生活でも、これまで以上に『安全』に配慮しなければならなくなってきていることです。

これまで、幸いにも死亡事故はありませんでしたが、『もしかしたら…』というような事故はありました。事故に遭ったり、怪我をしたりすると、楽しみにしていた山行が出来なくなります。『来年に延ばせば良い…』と言う余裕はありません。好きな山歩きを継続するために、改めて『安全』について考え、対策を練る必要があります。

そのための第一歩として、この40周年を機に、これまでに経験した自分自身の小さな事故や怪我などを振り返り、改めて、『安全登山』について会全体で話し合い、今後の会活動に生かしていきたいと思えます。

安全登山をする上で、少なくとも、相応の『体力』が必要です。体力が落ちれば、『気力』も落ちます。山登りには、この二つのバランスが必要です。まずは、体力維持のために日頃のトレーニングを継続し、衰えを最小限に抑える必要があります。

私個人の考えですが、『山歩きのトレーニングは、やはり山歩き』でしょうかね。

定期的に山に行っていると、不思議なほど身体が軽く、軽快に歩けませんか？それに比べて、しばらくぶりに歩く時は、身体が重く感じませんか？

『平地での歩き』と『山での歩き』では、使う筋肉が違います。やはり『山に適した筋肉は、山歩きを継続することで持続できるのでは…』と思っています。

さあ～、45周年、50周年を目指して、一緒に山に行きましょう！

40周年記念集中登山 八ヶ岳赤岳鉱泉

江崎 昌子

2016年8月28日、八ヶ岳赤岳鉱泉に午後3時集合。

この計画に10パーティー36名の会員が参加しました。実行直前に悪天候の予報が発表され、実施するかどうか検討しましたが、「予定通り行きましょう！」と決まり8月26日安彦さんが一番に出発しました。

- ① 8/26 朝出発 観音平⇒編笠山⇒西岳⇒権現岳⇒三ツ頭⇒赤岳⇒硫黄岳⇒峰の松目⇒赤岳鉱泉 3泊4日 安彦
- ② 8/26 朝出発 麦草峠⇒白駒池⇒天狗岳⇒硫黄岳⇒横岳⇒赤岳鉱泉 3泊4日 前田延、井上勝、山脇
- ③ 8/26 朝出発 観音平⇒編笠山⇒権現岳⇒赤岳⇒硫黄岳⇒本澤温泉 2泊3日 星
- ④ 8/26 夜出発 麦草峠⇒高見石⇒天狗岳⇒硫黄岳⇒横岳⇒赤岳⇒赤岳鉱泉 夜行2泊3日 安田、菊池、嶋本、江崎
- ⑤ 8/26 夜出発 麦草峠⇒高見石⇒天狗岳⇒硫黄岳⇒赤岳鉱泉 夜行2泊3日 菅谷
- ⑥ 8/26 夜出発 観音平⇒編笠山⇒権現岳⇒赤岳⇒阿弥陀岳⇒赤岳鉱泉 夜行2泊3日 梅田、石塚、畑中
- ⑦ 8/27 朝出発 渋の湯⇒黒百合ヒュッテ⇒天狗岳⇒硫黄岳⇒赤岳鉱泉 2泊3日 伏見、岡部、小林和
- ⑧ 8/27 朝出発 稲子湯⇒本澤温泉⇒天狗岳⇒硫黄岳⇒赤岳鉱泉 2泊3日 羽鳥、山口夫妻、前田悟、四元、菅原、井上順
- ⑨ 8/27 朝出発 美濃戸口⇒行者小屋⇒阿弥陀岳⇒赤岳⇒赤岳鉱泉 2泊3日 手塚、村上、木村、清水、猪狩
- ⑩ 8/28 朝出発 美濃戸口⇒赤岳鉱泉 1泊2日 北川、高見、桐生、三橋、八巻、小林正、渡邊正、逢地

天気予報通り8月27日は雨、各グループ雨の中を滑らないよう、ケガをしないよう一歩一歩集中して歩いたようです。雨の中を歩くと危険も多くなりルートを省略して最短コースを取ろうかと前夜は相談していたパーティーもあったようです。ところが8月28日、雨は上がり朝日が輝き登山日和、皆さん予定通り進めたようです。赤岳山頂直下で安彦さんとすれ違ったり、阿弥陀岳から縦走してきた手塚さんチームと出会ったりと、集中登山ならではの楽しい出会いがありました。赤岳鉱泉に朝10時に一番で到着した菅谷さんは、下準備下調べを充分にし、到着する皆さんを待ち受けていました。②の前田延さんチームが昼前に到着、その後④⇒⑥⇒⑨⇒①⇒⑦⇒⑩と次々と満足した笑顔で到着しました。

ところが⑧チームが3時を過ぎても現れず心配しましたが30分程遅れて赤岳鉱泉に到着。全員ケガもなく元気に揃い本当に良かったです。(③の星さんは都合により、本澤温泉から下山しました。)



赤岳

登山の汗を鉱泉の湯で流しさっぱりしました。夕食には小屋の差し入れの信州ワインがなんと7本、メインはステーキの陶板焼き、美味しく楽しいお食事でした。食後は談話室で各パーティーの報告、一日目は雨の中の苦しい登山、二日目は天からのプレゼントのような晴天八ヶ岳連峰の最高の展望を満喫したと…和気あいあい、あっという間に夜の9時。

翌日の下山は各パーティーごとに出発し、予定より早く美濃戸口に集合、鎌観のバスに乗り込み望岳の湯に立ち寄り、帰路につきました。

半年前から準備を始め、山行部長を中心に打ち合わせを重ね、赤岳鉱泉との交渉などを経て8月に実行する事になりました。



赤岳鉱泉にて

留守本部を受け持って下さった松本さん、永木さんありがとうございました。皆様のおかげで八ヶ岳集中登山が成功しましたことを感謝いたします。ありがとうございました。

八ヶ岳集中登山（東天狗岳・西天狗岳・硫黄岳）

前田 悟

メンバー： 羽鳥 山口洋 菅原 山口幸 四元 井上順 前田悟

私たちは、本沢温泉から東天狗岳・西天狗岳・硫黄岳を縦走するコースでした。

「晴れ男」を自負する私ですが、私をさらに上回る「嵐を呼ぶ男・女」が参加されていたのか、1日目の本沢温泉までは小雨の中の山行となりました。

梅やシラビソの原生林を歩いていると、雨にしっかりと濡れた鮮やかな苔の緑が目を楽しませてくれました。雨もまたいいものです。

また、みどり池の畔にある「しらびそ小屋」で昼食を食べていると、窓際にやって来た野生のリス！ 自然をととても身近に感じることができました。

夕方、無事本沢温泉に到着。温泉好きの私は、早速 内湯で汗を流しました。ここの温泉は少し熱めで茶色く濁っており、いかにも温泉という感じです。その後、日本最高峰の野天風呂があるというので海パンとタオルを持って出かけました。宿から歩いて10分くらいの所にあり、登山靴でないと行けません。野天風呂は、硫黄のにおいのする白濁した温泉でした。野天風呂にはメンバーの他、オーストラリアから来たという若いカップルと、案内人らしい若い日本人の女性が入っていました。私は海パンに着替えようと思いましたが、着替え場所がありません。仕方なくみんなに目をつむってもらい、無事着替えることができました。温泉につかりながら、外国人のカップルたちと少しの間交流。標高2150m、野趣あふれる雲上の野天風呂は最高でした。本沢温泉には翌日の朝も入り、しっかり男を磨きました。それで到着が遅れ、ご心配をおかけしました。

2日目は予報に反して朝から青空が見られ、メンバー全員気持ちよく宿を出発しました。夏沢峠から東天狗岳と西天狗岳へ、そしてまた東天狗岳へ引き返し、そこから硫黄岳山頂を通して赤岳鉱泉へ向かいました。時々ガスがかかったりしたけど、3つのピークからの展望は素晴らしかったです。まさに絶景でした。

赤岳鉱泉に着くと、私たちを迎えに来てくれたらしい元気な声が聞こえてきました。江崎さんでした。そして宿に着くと、菊池さんが僕のリュックを持って部屋まで運んでくれました。山の会の人たちの仲間を思いやる優しさに感激しました。

それにしても70歳前後の人たちが、10kg以上あるリュックを背負って3000m近い山を何時間も歩くのには感動しました。そして勇気を頂きました。

今回の八ヶ岳集中登山は僕にとって、とても充実した、思い出深い山行になりました。また機会があったら参加したいと思っています。ありがとうございました。



八ヶ岳集中登山 (渋の湯～硫黄岳～赤岳鉱泉)

伏見 純子

八ヶ岳、とってもいい響きです。

私の山の原点は飯盛山、八ヶ岳です。まだ、夢一杯の乙女の頃です。ある時は山小屋にバイトに行きたいと、真剣に思った事もありました。

17時に仕事を終え、新宿で交代で並び夜行で立ち、早朝に八ヶ岳の麓に到着した時代でした。北八ヶ岳は合宿に使い、何度も訪れた大好きな山域です。

今回の集中登山も北横岳から硫黄岳を経て、赤岳鉱泉を計画しました。しかし、お天気に恵まれず1日割愛しました。

8/28 茅野駅に降り立つと結構な雨で、「どうする、どうしよう。」まずは渋の湯まで行ってから考えようと話し合う。雨も小雨になったので歩き出す。山道は滑りやすく、ゆっくり慎重に歩を進めると14時に今宵の宿「黒百合ヒュッテ」に到着。マァーびっくりしましたね。この雨の中100名以上の宿泊者です。夕食を終えて床に就きましたが、屋根に当たる雨音を聞きながら、明日の天気はどうなるんだろうと思いつつ、何時の間にか眠っていました。

8/29 目が覚めると、最高の山日和です。朝食後、東天狗に向けて歩き出すと、お天道様も顔を出し、嬉しさが増して来ましたね。山頂から360度の展望を眺めてから、根石小屋でゆっくりと、美味しいコーヒータイムを過ごし、「コマクサの時期に来ますね。」と、約束をして小屋を後にしました。

硫黄岳に11:30に着く。廻りの山々を眺めながらランチタイムです。今年も硫黄岳に来られた事に皆に感謝です。やっと腰を上げて赤岳鉱泉に向かいます。

危険な所もなく、何度か歩いた道なのでショウゴ沢でおやつタイムをして15時に鉱泉に着きました。

小屋着後はとっても気持ちの良い檜のお風呂に入りました。その後の宴会は、何時もの楽しいおしゃべりと、美味しいお酒、料理とで「40周年にふさわしい宴」でした。



ニュージーランド・トレッキング裏話あれこれ

安彦 秀夫

日程：2016年11月22日（火）～12月5日（月）＜14日間＞

参加者：CL：安彦、SL：岡部、 M：安田、羽鳥、逢地、井上(順)、山口(幸)、
(15名) 江崎、石塚、嶋本、菊池、井上(勝)、山口(洋)、菅原、菅井/ちば山の会

『東葛山の会創立40周年記念海外登山』として、季節が反対の南半球の島国『ニュージーランド（南島・北島）』のトレッキングを仲間と一緒に楽しみました。

トレッキングや観光などについては、参加者からの報告にお願いするとして、私からはハプニングや裏話などをメインに報告します。

日程は、次の通りです。

現地での移動は、チャーターバス（日本人ガイド兼ドライバー）で行いました。

- ① 11/22（火）成田空港 16：30 集合 成田空港 18：30✈
- ② 11/23（水）9：00 オークランド空港 12：05✈13：55 クイーンズタウン空港
→クイーンズタウン市街（ミルフォード・トラック・トレッキング説明会参加）
- ③ 11/24（木）**ミルフォード・トラック・トレッキング** 1日目（参加者自己紹介）
- ④ 11/25（金）**ミルフォード・トラック・トレッキング** 2日目
- ⑤ 11/26（土）**ミルフォード・トラック・トレッキング** 3日目（マッキンノン峠越え）
- ⑥ 11/27（日）**ミルフォード・トラック・トレッキング** 4日目（完歩賞授与式）
- ⑦ 11/28（月）**ミルフォード・トラック・トレッキング** 5日目
（ミルフォード・サウンド・クルーズ）→クイーンズタウン市街
- ⑧ 11/29（火）（移動）クイーンズタウン→アオラキ/マウント・クック国立公園
（**ケア・ポイント・トラック・トレッキング**）
- ⑨ 11/30（水）**フッカー・バレー・トラック・トレッキング**
（マウント・クック 3724m眺望拔群！）
- ⑩ 12/1（木）（移動）アオラキ/マウント・クック国立公園→テカポ湖（サーモン丼）
→クライストチャーチ空港 19：00✈20：20 オークランド空港→オークランド市街
- ⑪ 12/2（金）（移動）オークランド→ワイトモ（ツチボタル鑑賞）
→タウマルヌイ（買い物）→トンガリロ・ナショナル・パーク
※江崎さん：一足早く帰国
- ⑫ 12/3（土）**トンガリロ・アルパイン・クロッシング・トレッキング**
- ⑬ 12/4（日）（移動）トンガリロ・ナショナル・パーク→タウポ湖→フカ滝
→ロトルア（テ・パイア：マオリ伝統音楽ショー鑑賞、ハンギ料理）
→オークランド市街（中華料理店で打上げパーティ）
- ⑭ 12/5（月）オークランド市街→オークランド空港 9：55✈16：55 成田空港（解散）

<1> ニュージーランド入国審査で次から次に…

私は、入国審査で『アウトドア用品』と『薬』について質問されました。特に、薬の種類を聞かれました。『何の薬ですか？』、『風邪用です！』、『他には…？』、『膝痛用です！』、『OK！』と言い、係官は、入国審査カードに何やら記入していました。

続いて、預けた荷物を受け取り、X線検査を待つ列に並んでいると、大きな犬を連れて係官がうろうろしているではありませんか！犬が荷物などの匂いを嗅いでいました。

税関では、次の質問をされました。『食品を持っているか…？』、『ノー！』、『植物は持っているか…？』、『ノー！』、『OK!』で、すんなり通過でき、一足先に、迎えに来たガイドと合流しました。

ところが、なかなか次の人が出てきませんでした。後で聞いたら、殆どの人が別の処に連れて行かれ、日本語の分かる係官に、登山靴等についてチェックをされた…とのことでした。

<2> ホテルは迷路…？

ニュージーランド最初のクイーンズタウンのホテルに着き、鍵を貰い、部屋の配置地図を見ながら各部屋の説明を受けましたが、全く分かりませんでした。ボーイさんに案内して貰い、やっと荷物を置くことが出来ました。

ミルフォード・トラックから戻り、同じホテルに着き、新たな部屋を説明されましたが、更に理解困難な部屋配置でした。やっと部屋に案内されても、今度は、フロントへのルートが良く分かりませんでした。何度か往復しているうちにやっと理解できました。

というのは、山の斜面に、継ぎ足しで建設されたような部屋配置だったためです。更に、戸惑わせたことは、外部からの侵入者対策の為、建物に入る場合は、鍵をドアの指定箇所にかざさなければ、ドアを開けることもできませんでした。加えて、エレベーターの階指定をするにしても、その都度、指定箇所に部屋の鍵をかざさなければならず、鍵が無ければ、建物もエレベーターも利用できないのですから…。勿論、部屋にも入れません。

というわけで、『フロントに集合！』と言っても、皆がスムーズに館内を歩くことが非常に難しく、全員が揃うまでには、相当の時間が掛かりました。でも、帰る頃には、スムーズに歩けましたが…。これでは遅いか…！

<3> 鹿肉ハンバーガー

ミルフォード・トラックでガイドに教わったお薦めのハンバーガー店『FERGBURGER』に行きました。なんと、店の前には長蛇の列が出来ており、店内そして店の前も沢山の人が溢れていました。一瞬諦めかけましたが、私が並ぶことにしました。女性陣は、他の食材を購入するため、先にスーパーに行き、そこで合流することにしました。

やっと自分の番になり、ガイドお薦めの『Sweet Bambi \$12.90』を15個注文したら、あまりにも多いので、可愛らしい店員さんにニコッと笑われびっくりされました。注文番号札を貰い、男性陣数名と一緒に待ちました。ところが、いくら待っても待っても自分達のハンバーガーは出てきません。20分以上は待ったでしょうか！あまりにも多い注文で相当

時間が掛かったようでした。

スーパーで購入したビールやワイン、サラダなどと一緒に食べましたが、食べごたえのある特大サイズでした。満腹…。でも、『鹿肉』と言われなければ分からない味でした。

<4>カメラが無い…！

メリノ・ウールで有名な『オマラマ』という小さな町でトイレ休憩し、バスに乗り出発しようとしたら、『カメラが無い！』と、土産物店に慌てて戻っていった人がいました。先ほどまで写真を撮っていたのに見当たらない…と言うことでした。

バスの座っていた座席と壁の隙間に挟まっていた。『おーい、あったよ！』と、土産物店に迎えに行きました。店員さんに話したら、一緒に探してくれたようでしたが見つからず、『トイレも探してみたら…』と言われたそうです。

見つかって良かったね！

<5>ビールとワインが無い…！

マウント・クック国立公園の『ハーミテージ・ホテル（シャレー）』は、自炊棟ですが、付近にはスーパーが無いということで、クイーンズタウンで食材を2日間分購入して持ち込みました。アルコールはホテルから購入できると思い、十分に買いませんでした。

ところが、ホテルの売店にはアルコール類は一切売っておらず、ホテルのバーに相談しても、瓶や缶では売らず、『グラスでなら売ります…』ということで、諦めました。

1日目の夕食では、前日の残ったビールが数缶あり、それで我慢しました。2日目の夕食でのアルコールは全くありませんでした。しかし、マウント・クックを眺めながら気持ち良くフッカー・バレーを歩いてきた後の祝杯を、何が何でも挙げたいと思いました。

前日ガイドが間違えて私達を案内したロッジに、自動販売機らしきモノがあったようだ…という仲間の記憶を頼りに、散歩がてら、ダメ元で行ってみました。1階に自動販売機はありましたが、アルコール類は販売されていませんでした。2階を見上げると、バーらしきモノが見えたので、上がっていき、バーテンダーに聞いてみました。

『缶ビールはある？』、『無い！』

『それなら、瓶ビールはある？』、『あるよ！』

『ワインはある？』、『あるよ！』

瓶ビールは重いので諦め、ワインを買うことにしました。

『ワインをテイクアウトできる？』、『できるよ！』

『空き瓶はどうすれば良い？』、『シャレーに置いておけば良いよ！』

『ホワイト・ワインを貰いたい！』、『これだけど…？』

『シャルドネはある？』、『ちょっと待って！』(裏に行き持ってきました。)

『それを2本下さい』、『ありがとうございます。ところで韓国から…？』

『日本からです！』、『楽しんでね！』、

『ありがとう！』

2本を持ち、ロッジを出ました。『思い切って歩いてきて良かった。皆喜ぶだろうなあ…』

と、心はウキウキランラン状態で戻りました。夕食時、めでたく乾杯ができました。参加者が喜んだことは言うまでもありません。

<6>南十字星…？

マウント・クック国立公園のシャレーに泊まっている際に、深夜にトイレに起きたついでに思い切って外に出て、満天に散りばめられた星を見上げ、『南十字星』を探しました。しかし、あまりにも多すぎて、どれが『南十字星』なのかが分かりませんでした。日中に方角を確かめておいたのですが…。

翌日も、深夜に見上げましたが、やはり見つけることはできませんでした。『星空観察ツアー』に参加しないとダメかなあ～。

<7>ビールとワインが飲めない…！

トンガリロ国立公園のホテルの近くにはスーパーが無い…ということで、マウント・クック国立公園の時の二の舞は嫌なので、移動途中の小さな町タウマルヌイのスーパーで、2日分の食材とビール、ワインを購入しました。

ホテル宿泊者の大半が、私達と同じようなトレッカーで、ホテルには、食器・鍋・スプーン・フォークそして電子レンジ、IHヒーター等が備わっている『自炊専用の部屋』もありました。先客が調理中でした。

料理の準備ができ、レストランの一角にテーブルをセッティングし、ビールとワインを持ち込んだら、『ここでは飲まないで…。部屋でなら構わないが…』と言われてしまいました。交渉しましたがダメでした。乾杯なしの夕食を楽しんだ後、部屋に戻り飲みましたが、食後の為か、あまり進みませんでした。

翌日は、トンガリロ・アルパイン・クロッシングを歩き、ホテルに着いて、まずはビールで乾杯し、その後に夕食を楽しみました。

<8>トイレが見つからない…！

ニュージーランド最後の夕食は、オークランドの街に出て楽しむことにし、ガイドに相談し、ホテルから歩いて10～15分の所にある中華料理店『DRAGON BOAT』を予約して貰いました。ホテルから店まで『スカイタワー』を眺めながら歩いて行きました。

余っていたワイン3本を持ち込み、乾杯しました。その後、ニュージーランドで一番人気のビール『スタイン・ラガー』を初めて飲みました。それまでに飲んだローカルのビールと比べて苦味が強かったかな…。キリンのラガービールに似た印象を持ちました。

食事後、近くのスーパーにお土産を買いに行きましたが、そこにはトイレは無く、ウロウロ…。隣にホテルがあったので、フロントでトイレの使用をお願いしたところ、『宿泊客か？』と聞かれ、『ノー！』と答えたら、きっぱりと断られました。仕方なく、夕食を楽しんだ店に行き、トイレを貸して貰いました。後日、ガイドから貰ったオークランド市内の店案内地図を見たら、公衆トイレのマークが、直ぐ近くにありました。あ～あ！

<9>何か不審でも…？

オークランド空港でチェックインし、スーツケースを預け、出国手続きを済ませ、手荷物検査を通った所で、いかつい係官に『英語を話せるか？』と聞かれ、『少しは…』と言ったら、横に連れていかれ、初めにウエストポーチの表面、次いで、ファスナーを開けて中のモノを紙で何度か擦り、その紙を特殊な機械に挿入しました。間もなく『ピピッ、ピピッ…』と音がしました。引き続き、ザックも同様にチェックされ、同様に『ピピッ、ピピッ…』と音がしました。『OK!』ということで、解放されました。

何の検査をしていたかを聞いたかったのですが、下手に聞いて面倒になるのも嫌だったので、直ぐその場を去りました。恐らく『麻薬？』関連の検査をしていたのではないのでしょうかね。抜き打ちで、何人かに一人ずつチェックをしていました。初体験でした。

<10>事前座席指定をしたのに…

オークランドから成田に帰る飛行機で、機内に入り、座席に着いたらバラバラでした。日本にいる時点で、機材変更になるたびに、何度も全員が隣り合わせの席になるように事前座席指定をしていたのですが、6名だけが近くの席で、残りの人は、近くには見当たりませんでした。

チェックインをガイドに全面的に任せ、貰った搭乗券を皆に配布しただけでしたので、座席変更の背景は分からずじまいでした。帰国後、旅行会社に報告したら、機材変更があったのでは…ということでした。そんなに頻繁に機材変更があるんだあ～。

私は、運よく、窓際3名座席に2人だけだったので、ゆったり座れましたが…。

<11>スーツケースが…

私のスーツケースの4個ある台座の内の1個の周りに亀裂が入っていました。それで、成田空港の荷物受取場所の奥（税関と逆）にあるカウンターに行き、手続きをしました。

後日、スーツケースを、ニュージーランド航空の破損手荷物修理をする会社に、着払いの宅急便にて送りました。（1週間後に、外観上は修理されて届きました。）

また、同行の一人のスーツケースは、施錠していたにも関わらず半開きの状態でした。幸いベルトをしていたので全開にはなっていませんでしたが…。仮に、ベルトをしていなかったらどうなっていたのでしょうかね？

他の大きなスーツケースも、コンベヤーの上を半開きの状態で回っていました。ニュージーランド航空の荷物の扱い方が荒いのでは…と疑いたくなりました。

<12>ミルフォード・トラックで…

ミルフォード・トラックは、『世界で最も美しい散歩道』と呼ばれ、世界のトレッカーの憧れのトレッキング・コースで、その醍醐味は、雨の日にこそ味わえるもの…と言われ、山肌から真下に勢いよく滝が流れる光景は圧巻です…。

ガイドブックなどで、以上のようなコメントを読み、雨が降ることは仕方が無いな…むしろ歓迎しなければ…という思いで、ミルフォード・トラックのガイド付きウォークに参

加しました。期待(?)していた通り、連日雨に遭いました。

ということで、これでもか…というほどの迫力ある滝をたくさん見ることができました。特に、ニュージーランド最大の落差580mの滝『サザーランド・フォール』は、山の上から一気に流れ落ちてきており、滝壺近くでは、水しぶきと風の勢いが半端ではなく、まともにも立っていることができませんでした。

また、トレッキング3日目の『マッキンノン峠』を越える際には、雨が雪に変わり、更には、吹き飛ばされるほどの強風に遭い、小屋に避難し温かい飲み物で身体を温めました。そんな中、稜線一帯に咲き誇っていた大きな丸い葉を持った白い花『マウント・クック・リリー』に心癒されました。

トレッキング5日目のミルフォード・サウンドのクルーズでは、これまでの天候と打って変わって快晴になり、パンフレットで何度も目にしている雪を覆った『マイターピーク』を眺め、また、岩陰で遊ぶペンギンや岩の上で日向ぼっこをしているオットセイなどを見ることもできました。更に、滝の飛沫に架かる虹も見ることができ、至福の時間を過ごすことができました。

<13> 記念海外登山を終えて

ほぼ1年前から調査を始め、現地及び国内の旅行会社数社とメール交換し、準備を進めてきました。3月初めに正式手配をした時点では、まだまだ先の事と思っていましたが、無事終了することができました。

当初、参加者は15人でしたので、部屋割りの事を考え、他の会から1人参加して貰い、16人で実施することで進めていました。ところが、怪我と仕事の都合で、1人がキャンセルになり、追加募集をしたのですが、見つからず、結局15人で実施しました。

1人のキャンセルが、他の人に影響(旅行費用面で)を及ぼすことになり、その影響が最小限になるよう旅行会社と再三交渉もしました。併せて、キャンセル者からは、キャンセル料の他に特別に協力を得ることもでき、感謝に絶えません。

また、疑問などが出る度にメールで問合せをし、旅行会社の担当の方には色々と対応していただき大いに助かりました。仕事とはいえ、ほぼ1年間、全面的に支援をしていただいたことに感謝します。更に、成田空港に見送りにも来ていただき嬉しかったです。

現地では、日程表と異なったことに何度も遭遇し、その度に、参加者の皆さんのご協力を得ることができ、切り抜けることが出来ました。

2週間という長い期間のトレッキングでしたが、参加者の喜んでる姿に接することができ、且つ、大きな問題もなく無事帰国でき、企画者としてホッとしながら、この原稿を書いています。

参加者の皆さん、ありがとうございました。お蔭様で、また一つ、大きな思い出を加えることが出来ました。

5年後の45周年を待たず、年に1回くらいの海外登山も良いのではないのでしょうか? 皆さん、次はどこにしますか?

ニュージーランド・トレッキング 「ミルフォード・トラック」

菅原 恵子

2016年11月24日～28日

1日目 (11/24)

グレード・ワーフ ⇒ グレード・ハウス (約 1.6 km 歩行約 20分)

クィーンズタウンの「ザ・ステーション」を9時、参加者50名とガイドを乗せ、バスはテ・アナウ湖畔のグレード・ワーフへ渡る船着き場へと出発しました。ガイドさんはAmelia、Jodi、Chenchen、と日本男子Kazの四人です。ランチタイムと休憩を含め3時間30分の道のりは、エニシダに覆われた黄色い山腹と羊・牛・鹿などの広大な牧場が延々と続いています。

出発前に起こったカイコウラ地震のニュースの中で、陥没を免れた牧場の一部とみられる緑地に、3・4頭の牛が取り残されている映像を思い出しました。これだけ広い土地と多くの家畜がいたら、そんな不思議なことも起こるんだなあ実感しました。

テ・アナウ湖での乗船時間は1時間弱。靴底を消毒してからミルフォード・トラックに上陸しました。整備された歩道を20分、1日目の宿泊所グレード・ハウスに到着するとまもなく荷物を軽くまとめ、クリントンバレー付近の散策に出掛けました。

2日目 (11/25)

グレード・ハウス ⇒ ポンポローナ・ロッジ (約 16 km 歩行5～7時間)

実質的なトレッキングのスタートです。クリントン川に沿った森林の中を歩きました。草原に出ると滝や溪谷の展望が開放的でした。

水かさを増した川の渡渉で、靴の中がチャポチャポになり落ち込んでいると、ガイドのカズ君が中敷きだけ完全に乾かしておけば冷たさは感じないはず、とアドバイスをくれました。明日のマッキンノン峠越えの未知の不安にも、日本の山を登っているから大丈夫ですよ、と言われ少し安心しました。

3日目 (11/26)

ポンポローナ・ロッジ ⇒ クィンティン・ロッジ (約 15 km 歩行6～8時間)

マッキンノン峠越えは、高低差上り620m、下り820mあり、行程中のハイライトです。初日からの雨は雪にかわり周りの山並みはすでに雪景色、緊張の中マウントクック・リリーの清々しさにいやされながら登頂したマッキンノン峠は冬山でした。暴風・あられ・積雪・寒さの中、ランチ予定のパス・ハットに辿り着いても食欲が湧きません。



暴風・あられ・積雪・寒さの中、緊張しながら越える、マッキンノン峠

「何でも良いからお腹にいれて」と促され、温かい飲み物とサンドイッチとチョコレート之急いで口にしました。小屋の中は緊迫した状態でした。下山もまだ荒れていたもので 岩などにしがみつきながら皆無事に下山出来て良かったです。

4日目 (11/27)

クインティン・ロッジ ⇒ マイターピーク・ロッジ (約 21 km 歩行 6~8 時間)

平坦な道でも距離があり、終点のサンドフライ・ポイントまで駆け抜けた感じがします。トレッキングは終了しました。小舟で対岸のミルフォード・サウンドまでは 10 分位、長い 1 日でした。

マイターピーク・ロッジで夕食後にひとりひとりに完歩証が授与されて、井上 (順) さんが江差追分を披露してくださいました。外国の方も聞き入っていたようです。

5日目 (11/28) ミルフォードサウンド・クルーズ

午前中約 2 時間のクルーズでした。途中から日が差し込みきれいな虹が見られました。船上から見上げた滝・滝・滝は豪快でしたが、反対に波打ち際にいた野生のペンギンと大きな岩の上のオットセイは小さく見えました。刻々変化する景色を追って船上を駆け巡り、臨場感を楽しみました。



マイターピークを始め、氷河に削られた急峻な山々に囲まれたフィヨルド (ニュージーランドでは「サウンド」と言う) は、船上デッキから見る景色全てがビューポイントで、飽きの来ないクルーズでした。

ニュージーランド・トレッキング「マウント・クック」

井上 順之

(2016・11・29～30)

4泊5日の雨と雪のミルフォードトラックを歩き、これぞ正にミルフォードの顔とも言うべきミルフォード・サウンドを見た翌11月29日朝8時。クイーンズタウンのハートランドホテルから、次の目的地「マウント・クック」へ向け、専用バスで250Kmの移動を開始。一般道は100Kmで走れる。途中、彼方にそびえるサザンアルプス、広大な牧草地と羊や牛、ルピナスの群生、「タソック」という乾燥地帯特有の植物が群生する荒野、エメラルド色の氷河湖などを眺めながらひたすら走る。二日間の夕食の食材を仕入れ、12時半宿泊先の「マウント・クック・シャレー」に到着。ロジ風の建屋で調理用設備の整った清楚な部屋だ。昼食後、「ケア・ポイント展望台」へ往復3時間ほど歩く。展望台からは眼前に雪を抱いたセフトン山の崖壁が見え、ミューラー氷河によって運ばれた堆積物が混ざって薄黄緑色の水をたたえた氷河湖が見える。残念ながらニュージーランド最高峰マウント・クック(3724m)の頂は、雲に隠れていた。

翌朝30日朝5時過ぎ、会長の戸を叩く音で目を覚ましたら外は快晴。はやる気持ちを抑え、朝日に染まるマウント・クックを見るためビューポイントに走る。期待通り周囲の山々は茜色に染まり、刻々変わる景色は何時まで見ていても飽きない。9時「フッカー・バレー・ハイク」に出発。完璧なまでの快晴と数日前に降った雪が、山々をより陰しく雄大に映し、絵葉書さながらの景色が続く。溪谷を渡り、整備された木道を歩き、「マウント・クック・リリー」と呼ばれる可憐な花(写真)に迎えられ、終点のフッカー氷河入口までの往復14Km、6時間の散策だ。マウント・クックは終日鮮明にその姿を見せ、飽きるほどに満喫できた。超有名なコースだけに大勢の観光客で賑わっていた。

今宵の夕食はパスタと具沢山のサラダ。ビールとワインで賑やかなひと時を過ごす。明日12月1日は南島を離れ北島へ移動する。

因みに、この山は登頂が極めて難しく、多くの遭難者の慰霊塔がある。世界初、エベレストの登頂に成功した「ヒラリー」はこの山で訓練したと言われている。



—写真—

マウント・クックとマウントクック・リリー(右下)

ニュージーランド・トレッキング 「南島から北島へ」

井上 勝代

“キアオラ”（マオリ語で“こんにちは”） 2016年12月1日～5日

12/1 クライストチャーチからオークランドへ国内便で移動

空港に降り立った途端に暑さを感じる。

12/2 移動日。トンガリロ（国立公園）に向けて専用バスで出発。

途中、長野県の辰野町と姉妹都市であるワイトモで洞窟を観光。天井一面に星空をおもわせるように青白く光るツチボタルは、ファンタジーの世界。そして真っ暗闇の中、若き女性が、天井に張ってあるロープを手で操りながら移動するボートに乗り、船上からもツチボタルを眺めて戻る。そこからトンガリロまでバスで約2時間。

12/3 トンガリロ・クロッシングへ

ホテル専用のバスで登山口に着く。運転手による約10分間マオリの自然への崇拝、クロッシングの所要時間等の説明を受けた後登山開始。暫く歩き、約1.5時間オーバの行程で山頂を目指す5人と別れ、進む。荒涼とした大地を登って行く。途中、大混雑のトイレの待ち時間が長く体が冷える。我々以外の方は、コンパスが長いのか歩きが速い（殆ど若者）。登山道は整備されていて、日本の山に比べればきつい上りではないのに、二カ所の階段で息が切れ“ハァーハァー”“ドキドキ”。こんな経験ははじめて。うしろに付いて下さった今日のリーダーから、歩幅を小さくするようアドバイスを受ける。功を奏して楽になった（歩幅を考える余裕もなく反省）。平坦な火口の中を進む。地面を触ると暖かい。峠の少し手前の岩陰で風をしのぎ、朝頂いたボックスランチを皆でほおぼる。その後峠を越したとたんに、溶岩がせき止めて出来たエメラルド・レイクが姿を現した。レイクの近くまで滑り降りる。

湖の色と山々のスケールに感動（写真）。下りにかかる。上からの眺めは日光のいろは坂。下に小さく小屋が見える。これをどうやって下っていくのか不安になったが、思ったより軽快に下る事ができた。その間の壮大な好展望は、北海道を思い起こす。黄緑色や赤褐色の石もゴロゴロ。山が生きている。遠くには噴煙も見える。日本で目にするコバノコゴメクサに似た白い花、ウサギギクのようなディジーなど風に耐えて咲いている。下るにしたがって木々の青さが増してくる。バス停までコースタイムより少し速く下り、その30分後には頂上に上った5人が下りてきて、その速さにびっくり！バスでホテルへ。

昨夜とその夜は皆で食事作りと片付を済ます。夜11時頃外に出たら満天の星空。南十字星の位置をホテルのスタッフに尋ねたかったが、人っ子一人おらず探せなかった。

12/4 移動日。オークランドへUターン。

リゾート地、タウポ湖を眺めフカ滝に寄る。高さは15mだが水量が多くスプライト色の水。その後ロトルア観光。ニュージーランド固有で夜行性の飛べない鳥‘キーウィ’

を隔離された暗闇の中で確認。ポプツ間欠泉を眺め、マオリ文化（木の彫刻やニューサイランのような葉を裂いての織物等）に触れてマオリショーを鑑賞。これはマオリの文化に則って進むショーで、英国文化の影響か、発声が西洋風で素晴らしい。これに法螺貝をおもわせる音が調和していた。不思議に思い帰国後調べたら、法螺貝はギリシャ、ローマの神話にも登場するとか。その後3時間近くかけて（200Kmの間、信号なしのところ有り）オークランド着。夕食は中華料理店で打ち上げ、スーパーを探して各々買い物を済ませホテルへ。

ガイド兼ドライバーの話は多岐に及んだ。政治、経済、貿易、教育、自然、発電等々。そのちょっとした例では肉で一番高いのは‘鶏肉’であること（牛、羊は人口より多い頭数、馬はペットで食用等もっての他！）。今の観光客のドル箱は中国人である（かつては日本人であった）。食料自給率は200%であること（日本は40%を切っている）。日本車が6～7割を占めていること（英国の影響で右ハンドル）。ニュージーランドには生息していないものはヘビ、オオカミ、クマ。食料で生産していないものはお米、ゴボウ、レンコン。天気予報は牛を見て、座っていると雨、良く食べていると晴れ。

運転手は上り坂で速度が落ちると“ヨイショー”とカーゴトレーラーに積んである我々の手荷物の重さを強調する。日本にいたときは大型観光バスのドライバーだったそうで運転は上手であった。

12/5 6:30 集合、空港へ。シダの一種（クラウン・ファーン）をデザインしニュージーランド航空便に乗り、一路成田へ。帰国してニュージーランドが身近におもえるようになった。（殊にニュージーランド産の食品など）



—写真—

トガリロ・クロッシング 途中「エメラルド湖」にて

思い出の山旅マチュピチュとエベレスト展望

猪狩 晃一

『インカ道トレッキング（43km4日間）空中都市マチュピチュへ』

インカ帝国の首都クスコ（標高3400m）から古代インカ道をテント泊で、登山者8人+ポーター14人の22人で歴史を辿るマチュピチュ（標高2400m）への山旅

【インカ道トレッキングとワイナピチュ登頂10日間】（2007年6月）

15世紀半インカ帝国は20人のスペイン軍に侵略され滅亡、アンデスの奥地の隠れた断崖絶壁に何故このような集落を創ったか。“その生活は”“インフラは”そして“インカの文化とは”“謎・謎・謎”（珍しい花も多い）

【3泊4日のテント泊のトレッキング】

峠3つ（4200m、3950m、3670m）を超え、古代の中継地の遺跡を見学して、ゴールマチュピチュへ。1日の行程：10km～12km、6時間～8時間。

標高差600m～1200m

【マチュピチュとは】

スペイン軍の侵略を逃れアンデスの奥地の隠れた断崖絶壁の集落、“何故このような所に創ったか”“全体が石造りでその石はどこから運ばれたか”

その技術は・インフラは・そしてその生活は・インカ文明とは “謎・謎・謎”

『エベレスト街道トレッキング（片道60km14日間）標高5,550mへ』

『エベレスト大展望カラパタール登頂20日間』（2007年11月）

カトマンズから小型飛行機で登山口ルクラ（2,652m）へ、14日間山小屋泊の自炊、登山者7人、ポーター8人のキャラバン隊。カラパタール目指し、歩く歩くの山旅。まるで真上にそそり立つ6座の8,000mの絶景ヒマラヤの山なみ。

1日の徒歩は5～7時間、荷物お任せの大名山旅。酸素1/2、高山病の恐怖、疲労、マスク真黒のホコリ（風呂、シャワーなし）との戦い。登頂5人、棄権3人（内ポーター1人）。



* 山行記録・写真集は東葛HPの『山行紹介』に記載

会津駒ヶ岳・山仲間へ感謝！

入江 一郎

2008/7 中旬、梅雨の晴れ間に Tさんと 2 人での尾瀬行きを計画しました。尾瀬国立公園はこの年 8/30 付で日光国立公園から独立しました。これまでの区域に会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山が新たに編入されたのです。

登山口の「すぎのや」に連泊、山菜料理を食べ温泉にのんびり入りました。会津駒は山頂近辺の湿原の雪が溶けたところで、高山植物が咲き始めていました。中門岳への登山道は全面雪に覆われ、雪溪の歩き方を教わりながら楽しく歩きました。中門岳での昼食時、国立公園問題を審議する環境省審議会の視察団一行と出会いました。その中に女性登山家の田部井さんが居られ、一緒に写真を撮らせて貰うという幸運に恵まれました。尾瀬の記念すべき年の思い出深い山行となりました。

「花泉」という地酒を飲むのも計画の一つでした。2 日目の夕食時「花泉」を注文すると、おかみさんが「出掛けるので適当に飲んでね」と言い、冷えた一升瓶をドンと置き部屋を出て行かれました。泊り客は我々のみです。Tさんはとても嬉しそうにニコニコ顔で飲んでいました。翌朝清算時、「お酒はサービスしたよ」と言われ、またもやラッキーです。



Tさんは学生時代からの山男、何かと指導を受けました。その後、同い年の Tさん、Wさんと 3OBと称し、九州・東北の山など何度もご一緒しました。Tさんとは 2011/8 山中湖のホテル・ツアーに参加、お天気にも恵まれ富士山登頂も果たしました。

2015/5 Wさん達と四国の剣山、石鎚山に登ったのが大きい山の最後となりました。

その後腰を痛め(診断は高齢化現象の一つ)、医者から「がんばらない、何事も歳相応、程々に」と言われ、軽い山歩きに転向しています。

これまで元気に過ごせたのも「山仲間のお蔭」、と感謝の気持ちでいっぱいです。

思い出の幌尻岳山行

渡邊 正夫

飛び石づたいに渡渉中ザックの重みのせいかバランスを失い川の中へジャポン、流されかけたがすぐ同行仲間が川に入りサポート、事なきを得た。雪どけの水は冷たいと聞いていたが緊張していたせいか思いのほか冷たく感じなかったが、尻まで水の流れに浸かってしまった。2012年7月5日からの北海道幌尻・後方羊蹄山山行の2日目（7月6日）、山行ルート中の取水ダム先で沢靴に履き替え、額平川の渡渉中のことである。10数回の渡渉を経て強力同行メンバーの気遣いを受けながら、無事幌尻山荘に着いた。

7月7日、早朝4時過ぎに幌尻山頂を目指し出発。

前日の失敗を肝に銘じ迷惑かけないよう懸命に歩く。急登を只々前へ前へと進む。途中休憩で飲む水の美味しいこと。また登山道に咲くエゾコザクラ・ミヤマアズマギクなどの花々に疲れを癒され元気を貰ったものです。

8時幌尻山頂に到着、日高主峰からの眺めはとても素晴らしく最高のものでした。

幌尻岳から戸蔭別岳へ、縦走中七つ沼カール・七つ沼には雪が残っていた。11時過ぎに着いた戸蔭別岳から見た幌尻岳の雄姿を思い出します。

幌尻山荘分岐を經由し六の沢までの急斜面を順調に下ったものの、メンバーのうち3名が遅れ待つこと約30分、折悪しく強い雨が降り出しあつという間に水量が増え、また当日も沢の中をジャブジャブ。

ルートファイディングにご苦労かけたリーダーに感謝しつつ無事山荘に着き、夕食時にビールで乾杯、全員の幌尻岳登頂を祝った。

幌尻岳はどうしても登りたい山でしたが、当時73歳の年齢から参加メンバーの皆さんに着いて行けるか心配でしたが、何とか皆さんのサポートにより達成できました。これからは加齢とともに厳しい体力となりますが、気力は十分にありますので1年でも永く山にかかわりたいと願っております。（2016・10・31記）



やまごころ・我が東葛山の会

梅田 尚志

半世紀ほど山登りを細々ながら続けてきた。定年を機に5年前に入会し、これほど身近に恐るべき山爺山姥がおられ、逞しく活躍をしていることに目を瞠った。登山はゲームや競技と違い勝ち負けも順位もつかない。しかし、達成感や爽快感は他のスポーツにはない魅力がある。「山の日」が制定されたことは喜ばしいことだ。

入会后間もない頃、南アルプスの赤石岳山行に同行し体力の衰えを痛感した。雨風にいたぶられ辛い行程を歩き通し、最後にようやく感激の絶景に巡りあえた。誘っていただいたことが嬉しくありがたかった。勤め人の仕上げとして「還暦富士」を済ませ、もう少し山をやり直そうとしていた中での東葛山の会との出逢いであった。

気が多く、ズボラな性格は山登りに集中できないのだ。山を下りるたび反省して体力増強をしなければ、とは思っただけ。努力なんぞ大嫌いなのだ。道楽が多すぎるためでもあるが、宮仕えから解放されても下界での時間は限りがある。山に入り浸りしたくても、義理や縛りがそれを許してくれない。それでも会山行に時間の許す限り参加させてもらって、少しは体力も戻って来た気がする。幸い大怪我や大病はなく、頑健な身体は親に感謝すべきかもしれない。

まだテント場の規制がなかった昔は山の中のどこでも寝られた。奥日光西ノ湖や摩周湖、会津駒の池塘の畔でツェルト泊したことも。池塘の水で炊飯し、翌朝よく見るとミジンコの炊込みご飯だったこともあって、青春の一時期おおらかに山旅をした。しかし、雪山や岩登りは親から許されず、子育て中の親であった時期も我慢していた。今、冬山や残雪期など単独ではいけない山行に行けるのは、会の先輩方の存在のお蔭なのだと思う。厳冬期の北八や大菩薩、残雪期の尾瀬、上高地等、今までの季節の空白を埋める山行が楽しめた。今年の北海道も空白地帯であったが、長く夢にまで見ていた羅臼登頂が果たせ感慨一入であった。



羨ましくも百名山制覇者がもう10名余に達する。人それぞれではあるが山に向かう心は変わらない。深久の百座選定に異論があるわけではないが、自分のスケールで登り続けられるからいいのだ。半世紀もかけて50座程度の亀の歩みで、入会后も60座に達していない。好き放題をやらせてもらって、人生のバランスをとりながら、谷には決して落ちない歩きを続けたい。そして自らの目標を課すことも必要かと、当面「72歳で72座」を！、ゴルフでは決して達成不可能なエイジシュートを目指し、もうしばらく山を楽しみたい。百歳で百座も見えてくるかもしれない。それはそれで偉業といえるのではないかな。

2012年8月南ア赤石山行で

東葛山の会に入って

前田 節子

東葛山の会に入会したのは2013年7月で、会員の中では未だに新人・若者組です。同じ時期に4人入会しました。新人といってもキャリアはそれぞれで、若い頃ガンガン登っていた人、日頃からジムや運動で体を鍛えている人等々。私は里山や低山歩きを楽しんでいたけど、何千m級の山々は眺めるだけの初級クラス。会山行や個人山行の度に用具のそろえ方から、歩き方など基本を一からアドバイスしていただき、山に登る回数が増えていきました。どの山も思い出深いのですが、特に次の3回が心に深く残っています。

☆新人歓迎山行・・・筑波山 2013年11月

「新人歓迎山行」をやっていただきました。行き先は筑波山。梅園の横から行く「猿田彦コース」で、結構きつい勾配をふうふう言いながらやっとの事で登りました。待望のお昼ご飯タイム。当番の方々のリュックの中から鍋やらガスやら食材やら…次から次と出てきて、きのこ汁があつという間にできあがりしました。温かい汁がおなかにしみました。みんなで食べる楽しさを味わい、この会に入って良かったと思いました。

☆初級登山講習①・・・日和田山 2015年9月

高麗駅に着くとまず地図とコンパスで日和田山の方角を確認。靴紐の結び方・ストレッチの仕方など丁寧に指導を受けてから登山開始。途中の樹林帯でロープワーク。練習したはずの結び方もいざとなると手が動かず、周りを見て、聞いて、教えてもらってようやくできました。男坂では、ベテランの先輩たちが先に岩場にロープを張るなどの準備をしてくださり、岩登りや救助を想定してのロープ投げなどを体験できました。

☆初級登山講習②・・・三頭山 2015年11月

初めてリーダーを経験した山行でした。担当は皆新人ばかり。何度も話し合いを重ね、山行計画を検討したり下見に行ったりしました。この山行の目的は、「ツェルトの張り方を知り、自分たちで山の食事を作る」でした。どの班も工夫したメニューでしたが、わが班はほかほかの焼売と肉まん、そして野菜とお肉いっぱいのお雑煮。どれもおいしくておなかいっぱいになり大満足でした。ツェルト体験では、わかりやすい説明で1人用・2～3人用などの使い方を実際に体験し、大変参考になりました。良く整備された道で歩きやすく、予定通りのコースタイムで下山でき、バスに乗れたときはほっとしました。下見の時は頂上付近、本番では麓や中腹でと、同じ山でも2度見ることができた素晴らしい紅葉が今でも心に焼き付いています。



初めての沢登りから

星 裕美子

ご縁があり、東葛山の会に入会した。それまでもハイキングやツアー登山などには出かけていたが、自分の登山は縦走まで。クライミングは危ない、雪山は死ぬ、親が悲しむから絶対にやらないと思っていた。

入会して半年（2014年7月）、岩登りの訓練として、奥多摩の水根沢で沢登りに参加した。正直、沢登りは別にやりたくなかった。なぜ岩登りの訓練が沢登りになるのか自体わからず、納得のいかないまま沢靴だけは購入し、あとは何もわからずに参加した。民家の裏から薄暗い沢に入り、濡れるのが嫌で水に入らないように歩いていたが、沢靴を履いているのだし危ないから水に入った方がいいと言われ、やっと水の中を歩いた。慣れてきてザブザブと歩くうちに、沢登りを否定していた固い気持ちがどんどん無くなって、「いい大人がわざわざヘルメットをかぶり服のままで水の中にいる！あ～もう腰まで水に浸かっている！なんだこれ！」と驚き、新鮮な気持ちになっていった。また梅雨の時期で水の量が多かった。胸まで水に浸かり、お助けロープを出してもらい岩にへばりつき必死に進んだ。常識的に考えればひどい目にあっているはずなのになぜか「すごく楽しい！」他の人たちもとても楽しそうで、自分の価値観が一変した。「大人がまじめに本気で遊んでいる！世の中にこんなに楽しいことがまだあるんだ！すごいな沢登り」。半日の沢登りで、山登りの楽しみ方がぐんと広がった。下山後にいただいたメロンも含め、このときの沢登りは、いまだに忘れがたい思い出になっている。

現在、家の物入れには、沢靴のほか、沢のタイツやスパッツ、12本爪アイゼンやピッケル、冬用のオーバージャケットやダウン、雪靴等がある。これらの道具の出番は多くないが、山の会に入り、数年でいろいろな体験をさせてもらった。また山の会に入ったおかげで、千葉の、他の山の会の人たちにも出会うことができた。危ないからやらないだろうと思っていたクライミングや、死んでしまうから絶対に行かないと思っていた雪山（しかもテン泊！ザ・冷凍庫）まで行かせてもらった。新しいことにチャレンジできたのは、おそらくあの沢登りが楽しかったおかげだと思う。山の会に入って、常識のネジがちょっとゆるみ、価値観はずいぶん変わった。安全第一は変わらずに、これからも様々な山登りを楽しんでいきたい。



初めての山旅

蓮見 久美子

東葛山の会に入会して1年になろうという頃、平成26年7月28日から8月1日まで白山、荒島岳行きのお誘いがありました。お花がとってもきれいで素晴らしいとの話を聞き、「どんなに綺麗なんだろう！山小屋ってどんなところなんだろう？初心者の私でも行けるかしら？」との軽い思いで一緒にいかせてもらうことにしました。

入会したものの、近くの日帰りハイキングしか経験のない自分は、会の中でちょっと場違いな雰囲気を感じていたのも、何でも経験しなくてはレベルアップできないといつも思っていたのです。

今回のコースは、新宿―夜行バス―金沢～別当出合～観光新道～白山室堂（泊）～展望歩道～南竜山荘（泊）～エコーライン～別当出合―金沢―福井―越前大野（泊）～荒島岳～勝原駅―金沢（新幹線）―東京の4泊5日です。

初めての夜行バスであまり眠れず金沢駅へ、バスを乗換え別当出合登山口到着、いよいよスタートです。暑い、きつい、遅れて迷惑をかける。それでも皆に励まされて進むといろいろな種類の花々が登山道の周りに咲いていて、これが皆さんの言うお花畑なんだ！と感動しました。

白山室堂に宿泊し翌日は雨の中を白山頂上から南竜山荘まで移動です。次の日は快晴で素晴らしい景色にまた感激しましたが、時間に追われながらの下山となり、足マメの痛さに耐えながら必死に下りました。翌日の荒島岳をめざして九頭竜線の越前大野駅へ移動し、旅館で3日ぶりにお風呂に入った時は本当にほっとしました。そして4日目最後の荒島岳は、暑さとザックの重さと足の痛さとの戦いでした。

辛さだけが残る帰りの新幹線では、石塚さんと菅原さんがビールと駅弁で労ってくれ、二人の優しさに感謝するばかりでした。

初めての縦走、いろいろな喜びと辛さを味わい、何事も準備が大事という事を実感した山旅でした。

つらい思い出も楽しい思い出も、みんなこれからも忘れないでしょう。



高天ヶ原温泉

五十嵐 幸治

登山をしながら楽しめる秘湯は、沢山有ると思うが、日本で一番遠い北アルプスの秘湯と聞くと、誰でも一度は行ってみたいと思うだろう。わたしもその一人だ。そんなチャンスがやってきた。

2015年8月

一日目、富山駅～タクシーで折立へ。駅に着いたらすでに雨だった。折立から雨の中を太郎平小屋（2330m）へ。ここで温かいもので体を温め、薬師沢小屋へと下る。幸い天気も回復して陽ざしが出てきた。この下りは道が細く、土がえぐられて、急降下で大変だった。

薬師沢小屋に泊まり、次の日に期待が膨らむ。

二日目、薬師沢小屋から「雲の平」と大東新道に登山道は別れる。大東新道は「奥の廊下」を途中まで歩く。川沿いの大きな石を渡りながら歩く。何本もの沢を渡りながら標高を稼ぐ。雲の平からの合流点が高天原峠だ。ここからは下りながら「高天原」を通り「高天原山荘」に到着。天気が良かったので洗濯をしてから、温泉へと下る。



20分ほどで待望の温泉だ！！
女子の野天風呂は目隠しがされているが、男子用は開放的だ。
川沿いの露天風呂では、湯に浸かったり、
川に浸かったりを何度か繰り返して、温泉を堪能した。
若いカップルは、水着着用で入っていた。

高天ヶ原温泉

「高天原山荘」はまだ新しくランプの宿だ。食事も良かった。何日もかけてたどり着いた温泉は満足度も倍増。

雲の平から行く人が多いようだが、黒部の清流と共に歩けたことも思い出深い。

これからも、山の中の秘湯に挑戦していきたいと思うこの頃です。

平ヶ岳 癒しの美溪 恋ノ岐川 遊行

赤塚 義政

日時 2016年9月9日(金)～11日(日) メンバー 菅谷 赤塚

コースタイム 9/9 鷹ノ巣山登山口 11:40→13:51 下台倉山 14:10→15:03 藪こぎ高度 1461m→
15:45 恋ノ岐川入溪高度 1300m→16:35 オホコ沢出合→17:10 オホコ沢テント場

9/10 オホコ沢テント場 7:55→10:11 20m ナメ滝→12:18 7m 魚止滝先の河原(昼食) 50m 大ナメ滝
13:45→14:15 高度 1810m 付近→藪こぎ→15:15 尾根登山道→16:00 池ノ岳

9/11 池ノ岳テント場 7:45→8:15 平ヶ岳 8:25→8:50 池ノ岳→10:25 白沢清水→11:25 大倉清水
11:35→12:55 下台倉山 13:15→14:40 鷹ノ巣登山口

9/9 今年は雨が多く晴れ間をぬっての沢登り、水量が気になるころだ。林道を進み沢に架かる木橋を渡り樹林帯を抜けると、尾根筋の鎖場 やせ尾根の急登が続く。今回は恋ノ岐川下流部分をはぶいて下台倉山から登山道はずれ藪こぎで恋ノ岐川を目ざす。予想より藪が深く苦戦を強いられる。13:45 分入溪 1 時間半もかかってしまった。広めの河原に出た。美溪の名にたがわず 次から次へと滝が現れる。難しい所は特に無い。3～4m の滝を 7 つ程越し 50 分程でオホコ沢出合いに着く。調査ではテント場がオホコ沢の少し上がった所に有ると言うことだったので、オホコ沢に進みテント場を探すが見つかる事が出来ない。もう一度出合いまで戻り、付近を探す事に。するとオホコ沢出合いの河原から少し上がった高い所の左岸に 1 箇所、右岸に 1 箇所、共に先着者なし。テント場を探すのに 40 分もかかってしまった。入溪してから未だ誰にも行き会っていない、貸し切り。良いのか悪いのか、空は曇り夜は月明かりもない。

9/10 曇り、今日も滝と釜 渡渉の連続。左に行こうか右に行こうか、先を見ながら即決断が要求されるナメ滝、トイ状の滝、滝つぼの水ぎわをへつりながら進む。穏やかな流れに癒され魚影も豊富。突然進路の先を魚影が横切り岩陰に。すかさずザックをおろし隠れた岩かげに手を突っ込む・・・岩魚も必死、手をゴソゴソするも石ばかり残念。

魚止め滝先の右岸にビパークポイントの有る河原で昼食。ここまで来ると水量も少なく川幅も狭くなってきた。5m トイ状小滝をいくつか越し、狭いゴルジュを進みしばらく行くと大ナメ滝。50m 右岸のへりを登る。一部勾配も有り。50m の高度も有るので気を抜けない。核心部はここまで、この先小滝が続き 4m ぐらいの滝を 2 つ越す。二人共疲れが出てきて上を見上げると、稜線が近くに見えたのでここから稜線に上がり登山道を行こうとなり、藪こぎとなる。進めば進む程笹藪がひどくなる。登りの笹藪で、背丈よりはるかに高い笹竹が顔にあたり腹や目にもぶつかってくる。30 分登り GPS を見ると、稜線の登山道までかなり近づいている、気を取りもどし頑張るがなかなか進まない。上を見ても少し空が見える程度、笹藪の密集地帯！ 飽きずに登ること 30 分、やっとの思いで登山道に出た。救われた思いで安堵感。しかし、もはやへトへト。1 時間程登り池ノ岳に着く。山頂一帯は木道が整備され。池塘が点在する湿地帯のところどころに板張りのテント場が有り、先着パーティーが二張あった。我々は水場の脇の板張りのテント場にツェルトを張る。

ツェルトの中から笹竹で中央を広げ、ゆったりスペース木製デッキの上で快適。

9/11 今日も曇り、テント場から 30 分で平ヶ岳。本来なら正面に燧ヶ岳 景鶴山 至仏山が見えるはずが、ガスって何も見えない。さすが百名山登山者が次々と登って来る。下りは台倉山から 6 時間かけ鷹ノ巣登山口に下った。疲れ果て疲労困憊だ。次回は恋ノ岐橋から挑戦したい。

山と短歌・・・そして畑

羽鳥 健一郎

東葛山の会に入って6年。短歌を始めて4年。思い出の山行を短歌で振り返りました。

2012年 ツボ足とピッケルで踏む甲子の山下りて浸かる大黒の湯

2013年 房総の郡界尾根を仲間らと今年も触れた人の温もり
光小屋外は静寂闇の中満天の星一人見上げる
年忘れ北温泉の裏山を二十四人で雪を踏みしめ

2014年 姫沙羅とブナの青葉が混ざり合い風薫る中天城縦走
利尻富士背中に背負い写真撮る長官山は八合目なり
難儀した有明山を無事下りてホット見上げるたるさわの滝
快晴の伯耆大山登山道山陰の海振り返り行く
冬隣り瑞牆山の登山道日陰に残る霜柱かな
房総の梅ヶ瀬溪谷綾錦京に劣らず秋てんこ盛り
木曾駒の千畳敷の大カールアイゼン付けて一列縦隊

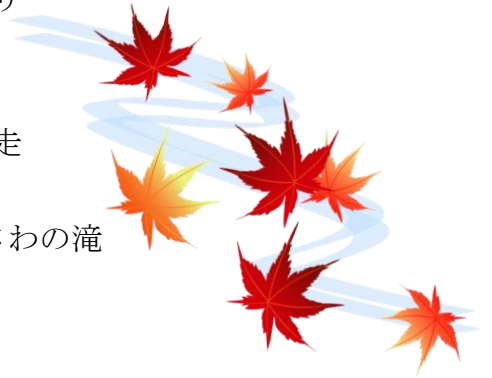
2015年 玉原のペンション泊まりスノーシュー十七人が雪の遠足
還暦を過ぎたる仲間十人がバリの山々連日登る
幌尻へ沢靴履いて徒渉する二十数回緊張続く
浅間下りレンゲツツジが満開の天狗温泉リュックを降ろす
ハヤトウリ歯応えも良し武尊山秋空の下山頂の昼餉
女川でワカメ選別袋詰め登山替わりのささやか支援

2016年 サクサクとアイゼンの音心地よし山道凍る二月の筑波山
サプライズ飯盛山のお昼時おじさん四人チョコを頂く
長興山枝垂れ桜は満開の枝を広げて我らを迎え
尾瀬ヶ原逆さ燧がうっすらと木道脇の池塘に映える
山頂で寒さに震えポーズ取る至仏山登頂互いに称え
急登の斑尾山のゲレンデはワラビも生えて賑やかスタート
米二合テント装備がずっしりと肩に食い込む夜叉神峠
間ノ岳山頂晴れて眺め良し鳳凰三山雄姿目の前
月明かり北斗七星仰ぎ見るヘッデン付けて空木岳登る
根石岳より振り返る天狗岳二つのピーク一筋の尾根
信越の県境の尾根紅葉す落ち葉踏みしめ我が身も染まり

(追伸)

仕事から解放され、会の仲間の紹介で野菜作りの真似事を始めました。

不揃いの畑で採れたキュウリ詰め二泊三日で北アルプスへ
初めての夏野菜終えモロヘイヤ空芯菜が九月を繋ぐ
ベニアズマ何度も蔓を返してもまだまだ伸びる九月の雨に



2 年が過ぎた今

小林 正人

昔よく言われた、そこに山が有るから。 仲間が（僭越ながら）いるから？
退職後 63 歳からの山歩き。65 歳になった今、2 年がたち思うことがあるかな。

24 時間の配分・・・時間が余っている・・・酒に費やす時間が増えた？

起きてポットに少し水を入れ、4 個の皿にカリカリを入れ、缶詰を開ける。

2 個の皿に缶詰のエサをいれ、後 2 個にお湯と缶詰を入れる。玄関を開ける。3 匹が居る。
犬と違いまとわりつく事はない。ババーのミケ。その息子と思われるマイケル。本当に小さな（よく無事でいたなど）チビ J。30 分もすれば白（混じりけなし）がくる。ミケとチビ J はメス。ミケは手術をした。チビ J もしなければならぬ。先祖伝来野良に会ってみたいもんだ。

なぜチビ J なのか？チビがいるからなのです。寝食を共にしているのがチビ、カリン、テト、ふくの 4 匹。貰ってきたのはカリン。チビ 12 歳、負けて片目。今は口内炎で月 2 回の注射。ほとんど刺し身しか食べられない。我家の庭で生まれ、育児放棄で 3 日目からのテト 7kg を超えた。玄関先にいたらまとわり付いてきてそのまま居るふく。ネコの事ばかり言っていますが、余っている時間には丁度いいのかもしれない。吾輩は猫であるが 8 匹もいると飽きません。

ただいつの間にか猫の食費は私持ちになり、公園の掃除代金が消える。

話は変わりますが、先日栗駒山に連れて行っていただきました。標高差 950M は私にとってはかなり大変。前日の明け方も雨が降り、これは中止だろうなと思っていたらそんな話は微塵も無く出発。特に問題なく登ったが 1626M で何故こんなに風が強いのか？ここまでの登りでは人に会う事がなかったが、須川温泉に向かうと火曜日にかかわらず人・人・人。道は水びたし。紅葉はステキ。

登りでは 4H 以上水溜りは無く、下りの 1.5H は水びたし、この差は？

地図に（一帯は見事なブナの林）とあった。花の名前を覚える事は難しいけれど、肌で感じられる事は気分が良い。おんぶにだっこはよくないが、あまり無理はせずにやっていきたいと思っています。どちらかと言うと唯物論者としては、やはりそこに山が有るから。

明日は北総ウォークの 12km を歩く。

<.追伸>

ようやく捕まえてチビ J の手術が終わりました。



後期高齢者

逢地 春夫

私が東葛山の会に入ったきっかけは、ある時私が富士山に登りたいと云った事でした。私は静岡県西部の、今は市町村合併で政令都市となった浜松市の出身です。富士山は静岡県のもの、とずっと思っていたので、一度は富士山に登って見たいと思ったのです。筑波山へは100回以上登っている森瀬さんから、東葛山の会と云うクラブがあるから入って見たらと勧められました。易しいコースもあるからと、それまで登山なんて全く縁のなかった私でした。ネットで調べて電話すると、事務局長の渡邊さんが気持ちよく応対してくれました。例会があるから参観しなさいと言われました。当時すでに私は73歳、登山と云ったら筑波山位、全くの素人です。歓迎の雰囲気でないのは当然、試用入会的な感じでした。渡邊さんのお情けで入会させて貰った様なものです。もし、学科試験、実地試験があったら完全に落第でした。会の皆さんからは、何かとご指導を受けながら少しずつ山登りが始まりました。私の家まで来てくれた木村さんには色々ご指導して頂きました。感謝致しております。後期高齢者の私には、登山は未だ楽しみよりも苦しみが勝っていますが、山の魅力は然ることながら、会の皆さんの人柄に触れる時、山を歩きたい気持ちはより強くなるのです。私には、あれから40年は有りません、10年でさえもクエスチョンです。山登りで皆さんに迷惑をかけず、無理をせず、安全な登山を続けたいと思っています。今後とも宜しくご指導願います。



「東葛山の会」に入会して

井上 順之

2年前の平成26年9月「東葛山の会」に入会、引け目感じる60ならぬ70の手習いである。それまでは登山とは全く無縁の生活。ただ昔から雪を抱いた尖鋭な稜線、急峻な岸壁を眺めるのが大好き。定年後或るきっかけで北アルプスが一望できる標高800mの長野県大岡に家を借り移住。4年間春夏秋冬のアルプスを眺める生活を満喫した。

入会前の平成26年5月、神奈川から鎌ヶ谷へ転居したのを契機に、新たな活動先を模索中、たまたま目にした広報で当会の会員募集を知り、諸々の不安材料が有ったものの半ば勢いで入会した。

入会後初参加の山行が、11月榛名相馬山への新人歓迎山行。榛名山位ならと甘く見ていたら、途中で足が筋肉痛を起し引きずりながらの下山。こんな事では先が思いやられると先輩に相談。訓練に良いと紹介された筑波山へ密かに通い始めた。しかし下山時常に筋肉痛で足を引きずる状態が続く。「下山苦戦中、帰り遅くなる」と家に何度メールした事か。要は筋肉量が足りない。それまで訓練のつもりで漬物石を入れたザックを担ぎ街中を歩いていたが、登山に使う筋肉の強化にはならない事を知った。その後は出来るだけ日帰り山行に参加すると共に、雑誌などから知った筋トレ体操も始めた。

入会一年後の昨秋、新会員同士で雲取山挑戦の話が出た。そして成り行きで私が「CL」になった。さて困った。今回はかなりの長丁場。CLが途中リタイアしたら話しにならない。そこで何らかのトレーニングを始めるのと、コースを知っている経験者に同行をお願いする事にした。後者は幸い親切な方がいて直ぐにOK。問題はトレーニング。何を基準にOKサインを出せば良いか考えた末、行き慣れた筑波山の二往復の達成。累積標高差、歩行距離を机上検討したが十分とは言えない。しかし少なくとも途中のリタイアだけは免れるのでは。そう信じて通い続け、山行2週間前念願達成。その後の雲取は辛かったが無事下山。この年齢になって、思いも寄らぬ挑戦と、それを成し遂げた満足感を味わった。

そして二年目のこの夏、大きな不安を抱きながら迷いに迷った末に、会山行の羅臼岳に挑戦した。参加希望したものの不安極まりない仲間を募り、3ヶ月前から羅臼挑戦のための訓練山行を実施。その甲斐も有り羅臼岳は何とか下山できた。下山後半は筋肉痛で厳しく辛い行程だったが、ともかく自力で下山達成。気持ちはルンルンだった。そしてその後の南ア・白峰三山縦走に参加する勇気を与えてくれた。

登山の魅力には登った人のみが味わえる雄大な自然が有る。しかしこの2年間での印象は、不安を抱きながらも自らの足で歩き通したという「達成感」「満足感」の方が正直強く残っている。そして目標がクリアできると新たな目標に挑戦したくなる。登山とは魅力的だが、己を知り自制しないと、取り返しの付かないリスクなスポーツかも知れない。

今後何年続くか分からないが、少なくとも「年甲斐も無く・・・」と言われたいように、アクセルとブレーキをバランス良く使い分けながら、「苦しくも後味の良い登山」を心掛けたい。会員の皆様、これからも宜しくお願い致します。

山、山、々、々、を続けたい！

栗山 孝市

この所、私は「山」より遠ざかっております。

何でだ！

それは肝心の足にガタが来たようです。これは体の状態が悪くなってきたのでしょうか。自分では、そういう事は、全然気づかないようです。

年のせいかな！

でも、まだ、まだ、体力に自信はあるつもりです。

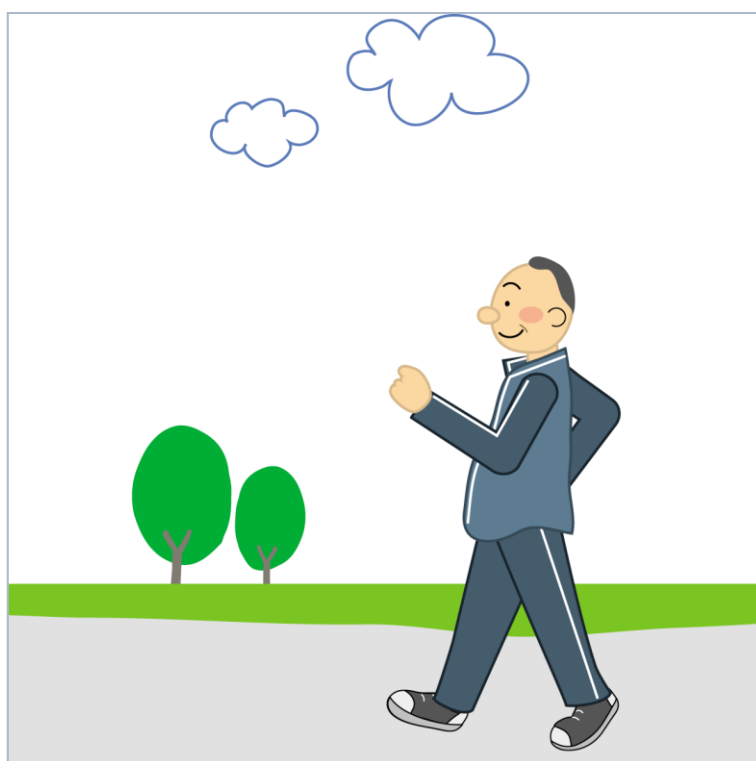
こんな事を言っていますが、皆さんに迷惑をかけた事を覚えています。

その時はありがとうございました。

山の会の皆さんが自信「たっぷり」に歩いているのを見ると、うらやましい限りです。でも私も、私の勝手ですが、平地なら多少の上り下りでも、歩けると思っております。歩けます。

そして、体を鍛えて、足を鍛えて、東葛山の会を続けるのがユメです。いや、続けていきたいと思えます。

「東葛山の会」を続けるぞ！



登山からウォーキングへ

高山 啓

若い頃から続けてきた登山人生の最後の締め括りは、夏の富士登山と決めていた。最後までいっても、登頂の体力がまだある時でないに困る。そんな折 2011 年 8 月 (73 歳時)、入江さんに誘われ富士登山を決行した。そろそろ山を駆け巡るのもしんどくなりかかってきていたが、幸いなことにさほどの苦痛に襲われることもなく、富士山頂に立てた。晴天に恵まれ、その雄大さには大いに感激した。

しかしその後、2012 年 7 月 (74 歳時)、誘われて無人小屋泊も含めた吾妻連峰縦走に参加したが、体力の低下をつくづく痛感した。前後して家内が体調を崩したこともあって、思うように山へ行けなくなったことが重なり、益々体力の低下に拍車がかかるように感じた。加えて、体力の衰えとともにバランス感覚が極端に悪くなってきた。

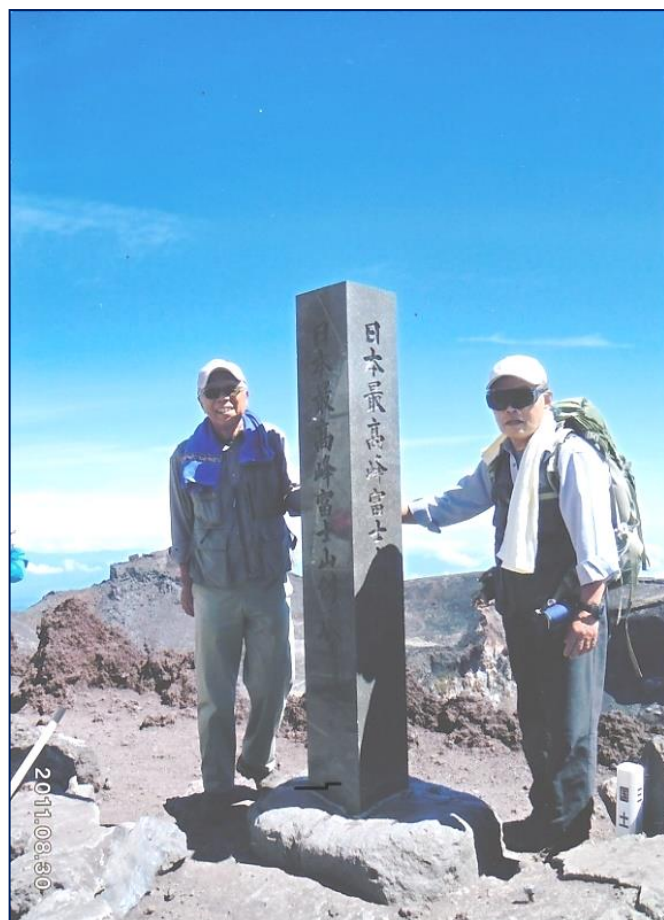
2013 年 3 月四阿屋山、10 月竜ヶ岳と登り、はっきりと気持ちの整理がついたと思った。75 歳で登山はやめることにしようと決めた。しかし、高校時代に始めてから 50 数年親しんできた登山、そう簡単に気持ちは切りかえられなく、大いに悩んだ。

折しも 2014 年に入り、年齢・体力等から会の山行に馴染みきれなくなったが、それでも在籍を希望する会員を対象に、里山散策、高原及び鉄道沿線ウォーキング、史跡・温泉探訪等々を活動対象としたセクションを会の中に設けようという機運が高まり、山行部の中に其のウォーキング部門が設立された。

これはありがたかった。自分の気持ちが登山から離れる必要に迫られていた時でもあり、すんなりとウォーキングへと移行できた。

中心メンバーはまだ数人だが、気心の知れた仲間ばかりであり、肩ひじ張ることもなく和気あいあいと行事を楽しんでいる。

今後時がたてば、おいおい仲間も増えることと思う。私は 2016 年 10 月現在 78 歳、体が動く限り末永くこれらの仲間とウォーキングを楽しんで行きたい。



富士山頂にて

心に残る二つの山

山岡 みや

“ゴロゴロゴロ”と遠くで雷が鳴っている。まだ遠いから大丈夫だろうと思っていたら、10分もしないうちに頭上で、“ガラガラドッカーン・ガラガラドッカーンと天が割れるような音。雨も強い。私たちは、林の中でジーンと身を伏せて雷の通り過ぎるのを待っていた。やがて、雨が小降りになり、雷も遠くに行ったのでまた歩き出した。

すると、普段なら渡れる小さな川が、先ほどの大雨で水がゴーゴーと流れ渡れない。ツアーガイドの判断で、予定した白馬水平道をやめ、朝日岳経由で朝日小屋に向かった。遠回りをしたが小屋に無事到着した。

小屋での話から、他のグループの人達は、大水の川を渡りザックを流されてしまったそう。命だけは無事でよかったが、山の様子をあまり知らない為、計画通りに川を渡ったのだろう。もし、私達もガイドなしで歩いていたら、同じように川を渡ったかもしれない。山を越え、わざわざ遠回りをするなど考えつかないだろう。山をよく知っている地元のガイドの適切な判断に、私達は事故もなく無事だった。

これは、ツアーで白馬岳～雪倉岳～蓮華温泉を歩いた時の事で、忘れられない山の一つである。

二つ目は、太郎平～高天原～雲ノ平を歩いた時である。薬師沢小屋からは黒部川沿いを歩き、木につかまって川を跨ぐ拍子に“チャポン”と川に落ちてしまった。

靴は濡れたが、大事故にはならなかったので、やれやれと大東新道を進んだ。大東新道は、新道というだけあって登山道は、あまり踏まれていないようだ。しかも木の根っこがやたら出ていて歩きにくい。かなり歩いたのに、なかなか高天原峠に出ない。

すこし気弱になって「このコースは無理だったかな・・・」と思い涙が出そうになった時、“ひょい”と峠に出た。それからは、快調に高天原山荘に向かい、温泉を楽しんだ。

翌日は、雲ノ平のお花畑を歩いたが、高低差が大きく歩くのに精いっぱい、花を鑑賞するゆとりがなかった。友達曰く「雲ノ平だから平な所を想像していた」と。

数ある山行の中で上記二つは、最も印象深くいつまでも心に残っている山である。

今までは、がむしゃらに山登りをしてきたが、もう夏山縦走や高い山等は体力的に無理になってきている。

これからは、低い山やウォーキングで、自然を楽しみながらゆっくり歩きたいと思っている。



<九鬼山にて>

花ハイク

山口 洋子

「あの山に〇〇の花が咲き始めたようだ。」

そんな花便りを聞くともうそわそわ。直ぐに観光課に電話をかけて、開花状況をつかむ。そしてわくわくしながら、計画を練る。そしてわくわくしながら、花ハイクに出かける。山の会に入会して2年半になりました。山の会で初めてふれあいハイキングに参加しました。車椅子を押して行き、坂道になると前方のひも引っ張り隊と後方の車椅子押し隊で呼吸を合わせて坂道を登りました。丘の上から、房総の海が見え、船も浮かんでいました。車椅子から降りてその風景を嬉しそうに見ていた人の横顔が、今も浮かんできます。母がいた頃は、毎年母を花見に誘うのが恒例でした。ひたち海浜公園のネモヒイラの丘の頂上目指して車椅子を3人がかりで押しているうち母は我らの悪戦苦闘を見かねて「いいよ。降りて歩くよ。」と言って車椅子から降りて気丈に歩き出した事もあったっけ。その頂上 といえば、ネモヒイラの青、太平洋の青、空の青と切れ目のない青い世界の真ん中でした。あれからも私は花の旅を続けていますよ。

日向地区の彼岸花

*0463-94-4711 (伊勢原市観光協会)

* 伊勢原駅下車 日向薬師行きバス 高橋下車か日向薬師下車

* 9月中旬～

* ハイキングとの組み合わせ

大山 日向山 鐘が嶽 白山 (ヒルに注意) 日向薬師から七沢温泉に下ればお待ち

小出川沿いの彼岸花

〈3キロの彼岸花ロード 富士山も〉

*0446-22-4141 (藤沢市観光協会)

* 小田急江ノ島線湘南台駅下車

慶応大学行きバス 慶応大学下車

* 9月中旬～

* 追出橋の方へ行く程彼岸花が見事です。

* 日向地区の彼岸花と組み合わせると楽しめます。



信越トレイル

山脇 多美

長野、新潟両県の境界にまたがる信越トレイルを今年(2016年)春と秋2回に分け、総延長80kmを歩いてきました。

このトレイルは6セクションに分けられ6回で踏破できるように組まれています。

春は1～3まで斑尾山～仏が峰登山口の行程で6月に実施。季節柄 ワラビ、山ぶき、根曲り竹等、山菜の宝庫で楽しんで歩けました。また、童心にかえり熟した桑の実で口の中を真っ赤にしながらかんぱって歩きました。

秋は10月に実施、仏が峰登山口～天水山までの行程です。前半と違いアップダウンが結構きつく歩きごたえがありました。途中、鍋倉山(1289m)があり又、新潟県側や日本海も見えます。ブナ林が一面続き、紅葉の中落ち葉を踏みしめながらの山行で、とても気持ちよかったです。あんなにたくさんのブナ林、なかなか見られない景色でした。(特に関田峠のブナ林は最高でした。)

春の新緑もまたとても素敵な所だと思います。

全トレイルを踏破でき達成感で満足できました。



2016/10/27 6セクション深坂峠にて

県連に入るまでのいきさつ

手塚 春雄

早いもので創立から40年を迎えようとしています。会が出来た経緯は20年史の「みちしるべ」に詳しく載っていますのでその後の県連とのいきさつを書いてみたいと思います。

これには松戸山の会との大きなかかわりがあります。当時東葛山の会はこの連盟にも所属していませんでした。そのころ、山での事故が新聞などで取り上げられ、私たちの会で事故があった場合、単独で捜索活動ができるだろうかという思いは常に持っていました。

その頃まだ松戸山の会が発足する前で、東京東部連盟に所属していた松戸に住んでいる方々が、松戸に山の会を作ろうとしていました。私は東葛山の会に所属しているので松戸山の会には入りませんでした。いろいろ相談を受けていました。

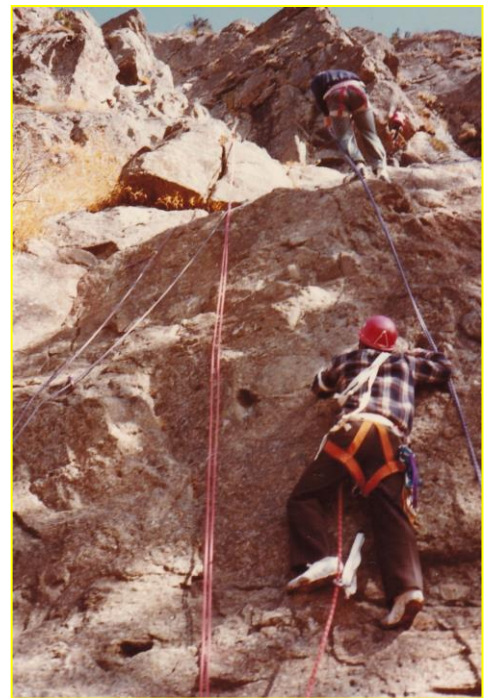
松戸山の会が発足してからすぐに東京東部連盟に所属し、東葛山の会も東京東部連盟に入りました。その頃、東部連盟に中級登山学校の開設の話があり、東葛山の会では、私と会員の畑一男さんが入りました。中級はザイルの操作、3点確保が出来て、自分で岩を登れるというのが条件です。はがきで申し込み「山の店タンネ」に集まってから一緒に行きました。登るところは主に谷川岳の一ノ倉沢の岩場で、生徒二人、先生一人が2本のザイルでつながり、トップで登る人は常に生徒で、先生は下で我々を見守っていました。この中級登山学校の校長先生は、冬の一ノ倉沢で亡くなった吉尾弘さんでした。

私も烏帽子の奥壁で一度ザイルを組んだことがありますが、温厚な人でこちらが大きな声で上から右によけてくださいという「はーい」と声が聞こえて来ました。

この登山学校も生徒が多く先生の確保が難しいということで、2年目に終わりました。2年目に千葉県連から連絡があり、千葉の山の会がどうして東京に所属しているのかということでしたので、松戸山の会と共に千葉県連に移籍しました。当時、県連は千葉山の会の事務所に間借りをしてそこで会議をしていました。当時の理事長は茂原道標山の会の会長さんで、よく子供たちを沢登りに連れて行ったりしていました。私も駆り出され、沢登りによく行きました。

障がい者ハイクの話もこの頃でてきたように思います。記憶が定かではありませんが20年史を見ると、最初は私一人で参加したようです。その後、わが会からの参加者も段々増えてきました。

千葉県連に入ってからいろいろな勉強会や山での講習に参加して県連にかかわりを持つようになって人脈も広がり、技術の向上も自分にとって大きな進歩になりました。



烏帽子の奥壁の岩稜

北海道の思い出

小林 和子

一度は北海道の山に登ってみたいと思っていましたので、登れて嬉しかったです。一年目は十勝岳、羊蹄山に登り、素晴らしい山々、シラネアオイ、小桜などの高山植物も見られ忘れられません。

二年目は富良野岳、アポイ岳に登り、裾合平周辺を散策しました。たくさんの高山植物、エゾシャクナゲ、エゾザクラ、チングルマ、シャクナゲなどが咲いていました。

三年目は大洗港からカーフェリーで苫小牧港に着き宿へ向かいました。摩周岳は摩周湖の周りを眺めながら、なだらかな尾根道を行くと大きな爆裂火口壁が見え、急坂を登ると摩周湖が見え素晴らしい景色でした。

雌阿寒岳は登山口から急坂を登って八合目、ここからジグザクを切って山頂に出ると、火山の煙がモクモクとすごい。山頂ではものすごい風で写真を撮るのに立っているのがやっとでした。阿寒富士を左に見て下山しました。中野温泉で安彦パーティーにイワナ、グレープフルーツを差し入れして私達は宿へ戻りました。

雄阿寒岳は小雨の中を登り始めました。道はなだらかだが滑りやすくゆっくりと登りました。五合目に着くと寒くて手が冷たく大変でした。八合目辺りからは強風のため、九合目で下山しました。

心残りでしたが、安彦パーティーと途中で会い、皆さんとタッチしたのもいい思い出です。

毎年、登山口まで送迎をしていただくなど、大変お世話になった柴田さんが、岩手の水害で亡くなってしまいました。

毎年ご一緒させていただいていたので、とても哀しい出来事でした。北海道は本当に思い出がいっぱいです。

皆さんに感謝しています。



思い出

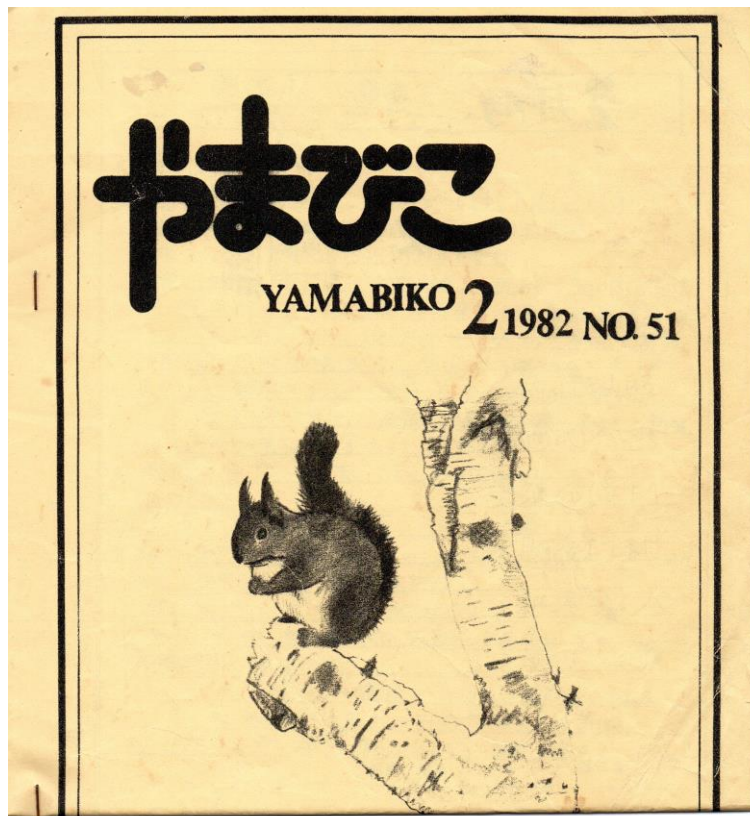
松本 政斎

東葛山の会も今年で40周年ですね。早い様な遅い様な気がします。振り返り会報を見直すと、最初はガリ版の会報から始まり、今ではパソコンの時代に変わり立派な会報を見ることが出来ます。

その年の山行記録を読み直すと、行った山の感動や怖さが浮かんできました。

またその年の会報部の担当者が、一つ一つの記録を作成してくれる事に頭が下がります。これからも長く会のために努力をお願いします。

また山行では北海道もよかったが、自分としては、去年の忘年山行が面白く、吹雪の中や大雪の中をラッセルで進み、いろんなハプニングや感動を経験しました。本当にありがとうございました。



クマに会いました—ツキノワグマが好き

菅谷 真一

今年が一番の収穫は、森吉でクマにあったことだ。

クマに会いたい、見たいと思いながら、熊除けの鈴をつけて歩いているのだから、人よりも熊の方が多い地域を歩いている、出会うことはなかった。もちろん、ぼったり顔を合わせるのにはオソロシイ。顔を叩かれた人の血がブナの幹に残っているのを見たりすると、絶対に出会いたくないと思うのだが、いろんな話を聞くうちに、クマさんはどうも悪い奴じゃないと思います。いつも近いところをうろつきながら、どうもこちらを避けているらしい。好奇心が強く、人のいないところでは、けっこう面白いこともしているようだ。

ゴロゴロする姿を、家人に熊だと言われたこともあって、どうしてもクマに親近感乃至同情を持ってしまう。里に出て来て駆除（ひどい言い方だね）された姿を見ると可哀想で仕方なくなる。せめて二度と里に来ないように痛い目にあわせて、奥山に放獣してもらいたいものだ。『なめとこ山の熊』じゃないけど、厳しい自然の中で生きるものとして、互いの生命を尊重して欲しいものだ。クマは一方向的にやられっぱなしだ。

とか言って、数年前に駆除されたクマを食べたりした。長野にいる弟が送ってきたのである。猟友会が増えすぎた鹿を駆除している最中に、クマが突然出て来てしまったということだ。どうも、間の悪いところがある。家族は誰も手を出さないで、ひとりで調理して食べた。鹿も、熊もけっこう食べられるのである。共食いだ。

山の会で、募って高尾山に「むささび」を見に行っていたことがある。食べに行っていたのではない。以前に自分で数度「ムササビ観察」に行き、姿を見ることができた。しかし当日は雪が降り、姿どころか声さえも聴けなかった。甘酒を配ってごまかしたが、参加した皆さん申し訳ありませんでした。というくらい野生の生きものは見つけることさえ難しいものである。もちろん、猿やカモシカ、雷鳥など、いっぱい居過ぎるか人間をなめて避けられない、反応が鈍いためにウロウロしている生きものもいる。然るに、クマとの出会いは矛盾と葛藤の中に置かれるのである。マタギに追われたクマが、手足のバランスを崩して逃げたという話を聞いて、慌てふためく姿を想像して気の毒だが笑ってしまう。だが、雪稜を登り上がったときに、反対側から真黒な奴が顔を出すような場面に出会えば、どうしてもウワツとなる。それがカモシカだと分かれば、この雪の中でクマが出るわけではないと落ち着くのだが、それまでは心臓が縮まりそうである。クマさんは見たいが怖い。

ところで、森吉のクマである。出会ったのは、道路。車の中。仔グマ2匹を連れてお母さんである。思っていたよりも毛並みは綺麗で、真っ黒。疥癬にかかった動物園のクマとは違う。車の中という余裕から、可愛いね、小さいね、こんな間近かだよ、などと言う声が周りから出てくる。森の中なら真っ青になって、声も出なかつたろうに。重なりもつれて母を追って雨の藪に消えた姿は愛らしいものだった。確かに命にあふれた生きものと出会ったと感じられた。狸でも兎でも山の中を走り回っているものには、美しさがあるように感じられるのは気のせいだろうか。ところで、誰かクマ語のできる人はいませんか。

入会してみて

清水 利夫

3年前に定年を迎え時間の余裕もできたので、趣味にしている写真撮影で、今まで行く事の出来なかった山の写真をと考えたのが、山歩きを再開するきっかけでした。しかし山歩きをしてみると写真は二の次で、山に行くことが楽しく夢中になってしまいました。

しかし若い時とは違い体力に自信がなく、奥多摩の山を中心に歩いていましたが、元の職場の友人と、時折一緒に山に出かけるようになり、南北アルプスにも行くようになりました。それまでは、単独行やツアー参加が多かったのですが、仲間を作り出かける楽しさを知ると、もっと山仲間が欲しくなりインターネットで当会を知り入会しました。

入会のきっかけのHPがしばらく更新されてなく連絡先もわかりにくかった為、暫く連絡に躊躇した経緯があります。入会後はHPの充実も必要な事と思い、管理人を引き受ける事にしました。もっと魅力的なHPにすることができれば入会者も増えるのではと思って、より良いHPを目指そうとおもいます。

以上が入会の経緯です。私が当会に入会して4か月が過ぎ、何度か山行にも参加致しました。何ととっても記念山行の八ヶ岳集中登山が一番印象が強いですね。



特に感じたのは、皆さんが和気あいあいと登山を楽しんでいる事が好印象でした。そして皆さんのバイタリティーの豊かさには感服しました。入会時には、私も頑張っても70歳位で山は終わりなのかな等と考えていたのが、今ではそんな自分が恥ずかしくなります。60歳を過ぎるとどこかに故障も出るし、体力も徐々に落ちている様に感じます。私自身も左膝と腰に故障

を持っています。山では下山時に大変苦勞していますが、少しずつ歩き方も慣れてくるようで、最近では膝を捻らない様に歩くことを心掛けて歩くと、余り負担に感じなくなりました。少しずつ自分の体に自信が持てるようになってきているようです。

これからは、私も皆さんに負けないように山をもっともっと楽しんで、80歳を目標に山歩きを続けて行けたらと思います。東葛山の会に入会して良かったと思っています。山の会の皆さん、これからもよろしくお願ひします。

山道を歩けば

前田 延津子

今迄、山でどれだけの花を見てきたのでしょうか？

図鑑でしか見たことのない花に出会えること、これが私の山へ行く一番の理由かもしれません。毎年夏山で会う可憐な高山植物は登山をしなければ決して目にすることが出来ない珍しい花が多く、見る度に感動します。それなのに最近はお花の名前を忘れ、思い出せないことが多くて悔しい思いをします。

最近では八ヶ岳集中登山で赤岳鉱泉からの帰り道、道端に咲いていた立派な曙草が印象に残ります。地味な色合いなので目立たないけれども。

八ヶ岳といえば4年前の6月半ば、三叉峰で咲き始めたばかりのツクモ草を見ることができた時の感激は忘れることができません。残雪の杣添尾根を苦勞して登り詰めて来た甲斐があり、案内して下さった伏見さんのご主人には感謝！！感謝！！でした。

今年の7月初めには10年来の念願だった山形県の大朝日岳に登ることができました。登山道で今を盛りの姫小百合に会えるなんて・・・やっとなの夢の一つが実現しました。この感動は言葉では言い表せません。

10時間の歩行時間の疲れも忘れてしまいました。

一緒に歩いてくれた仲間にはとても感謝しています。

去年の春、70日の入院生活ではベッドの中でもう山は無理、ましてや大朝日岳などともない諦めていたのですから。でも山仲間の温かい励ましと周りの人達の支えがあり、何とかここまで回復しました。本当に皆様のおかげです。あきらめないでよかったあー。

そういえば5年前に関節リュウマチを発症した時も同じことを思ったっけ。少うし体力が回復するとともに又、欲が出てきました。

これからも歩いてみたい花の山がチラチラと頭の中に浮かんでいきます。

新潟県・五頭山のイワウチワ、鳳凰三山の高嶺ビランジ、餓鬼岳（白沢コース）の白髭草、大杉谷の石楠花等々。どれだけ実現できるかしらね。

なかなか簡単に行けない所もあるけれど、体力・気力(これが問題ですが)の続く限り山歩きは続けたいと思います。ご一緒して下さいるとすご〜く嬉しいです。

まだお元気な大先輩の方たちを目標にして、ゆったりとした山行を楽しみたいと思っております。



思い出の北海道

村田 綾子

古希を目前に山歩きを振り返ると、強い意志も実力も持ち合わせていない私が北海道から九州まで随分広範囲の山を歩いている。これは全て東葛山の会に入会しているお陰と言える。特に60歳過ぎてから北海道の山をキャンプを交えて登ったことは、想定外で自分でも驚きでほくそ笑んでしまう。

初参加の利尻、礼文の折は足取りの遅い私はパーティについていけるか心配だったが、無事帰ると次から次へと行きたくなり、夏山は4年連続北海道へ向かう。飛行機で飛びレンタカーに荷物を詰め込み、皆で買い物をし、10時間以上歩いてきて皆で食事を作りビールで乾杯すると疲れも吹き飛んでしまう。

蚊の大群に悩まされネットを被って食事作りをしたり、キツネやカラスに食料を奪われないよう車に片付けたりと、北海道ならではの事も多々ある。へろへろに歩き疲れた事等忘れて楽しかった事ばかりが思い出される。

トムラウシ山行の時は帰って来て一週間後、ツアーの大事故で何人もの人が亡くなりショックだった事もある。

又、幌尻岳は無理と思っていたのがコース変更と聞き不安に思いながらも参加。直前には15キロのザックを背負い、夜自宅の階段を上り下りしたり、フェルト付きの沢靴と靴下を買い足首がかなり締まっているので着脱の練習をして準備。渡渉40数回流されないように、転ばないようにと繰り返しながら何とか無事下山。頼りの強いリーダー(安彦会長)のお陰で分不相応の山にまで登ることが出来、感謝感激！

その他、知床方面ではヒグマに備えて大声で歌いながら歩いたり、楽しかった事ばかり思い出される。

山と仲間に活力を頂き、少しでも長く自分なりの山歩きが出来れば幸いです。



山から貰ったタカラモノ

渡辺 實

会が発足してから四十年、よくぞ続いたものだとしみじみ思う。その力は『山が何よりも大好き』という集団の力。越えられぬ峠道は無いという結束力に違いないと思う。心から四十年の到達点を祝いたいと思う。

私が仲間に加えさせてもらったのは平成二年二月。前の年まで勤めていた会社を定年退職し、これからの時間を何をやって過ごして行こうかと思案していた折、当時、山の会では年二回ほど市民を対象に『市民ハイク』と銘打って、関東周辺の低山にハイキング活動を実施し、会員拡大と資金確保に熱心に取り組んでいた。そんな呼びかけに機会を得て早速一市民として申し込んでみた。

平成元年初夏六月、ハイキングの行き先は丹沢大山だと記憶している。重ねて同年十月の市民ハイクは生藤山、ここにも参加した。二回目の参加で入会の呼びかけの機が熟したと考えたのか、早速帰りの電車の中で熱心な入会の誘いを受けた。山の中で生まれ育った私。山の『いろは』は承知していたと思っていたが、長い間山の村から離れて暮らしてきた六十歳の体にはきつかった。しかし、山の匂いは体の奥に残っていて、『やってみるか』と心を決めた。

以来二十六年余り、山に挑戦するために体を鍛え、維持する事に決めた。出来る限り山行計画に参加し、多勢の仲間に出会い、絆を育て深め、楽しい時間を過ごし、加えて平場の暮らしの中でも交流し、楽しい時間を持てる関わりを心から嬉しく思った。その上、この中で思いも及ばなかった貴重な経験をさせてもらった。日本百名山を初め、各地の山に登り、地方の暮らしにも触れることが出来た。更に、よその国の山(台湾、韓国、ネパール、ボルネオ)にも案内され、珍しい異国の風景にも接する事ができる贅沢を味あわせて貰った。

四十周年記念を機に自らの活動を振り返ってみると、受けた仲間からの温かい援助に感謝の言葉も見つからない。

此处二、三年、体調の変化で山行が困難になっているが、許されるなら会との関わりは続けたいとも思う。何はともあれ、四十周年を心から祝いたい。



エベレスト街道にて

房総ロングハイキング

八巻 幸子

私が県連のハイキング委員を引き受けてからもう何年目になるのだろうか？
会に入りしばらくした頃、前の方から引き継ぎました。

私が最初にロングハイクに参加したのは、2001年の第17回の高鶴山～伊予ヶ岳～富山～中学校がゴール(約27km)、この時は最後まで歩き通すことが出来ず残念な思いをしました。ゴール地点で役員が水仙の花を手渡していました。最後のほうになると辺りは真っ暗です。

また2003年からは東葛地区は前日にハイキングをしてから、翌日のロングハイクに参加しました。私も若かったのですね。20kmも歩けたのですから！！

また2006年の22回目からはコースが変更になり、石尊山～清澄寺～三石寺がゴール。三石寺にはマラソンの高橋尚子さんの足型が飾ってあります。林道を歩いていると、イノシシが檻に捕まっていたり、鹿が死んでいたり、蛭に出会ったりと、色々なことがあります。

ロングハイクも今年で33回目を迎えます。私も何時まで歩けるかわかりませんが元気で歩けたらと思います。



2016年1月 妙見山 赤い実はイイギリ

期間限定山行

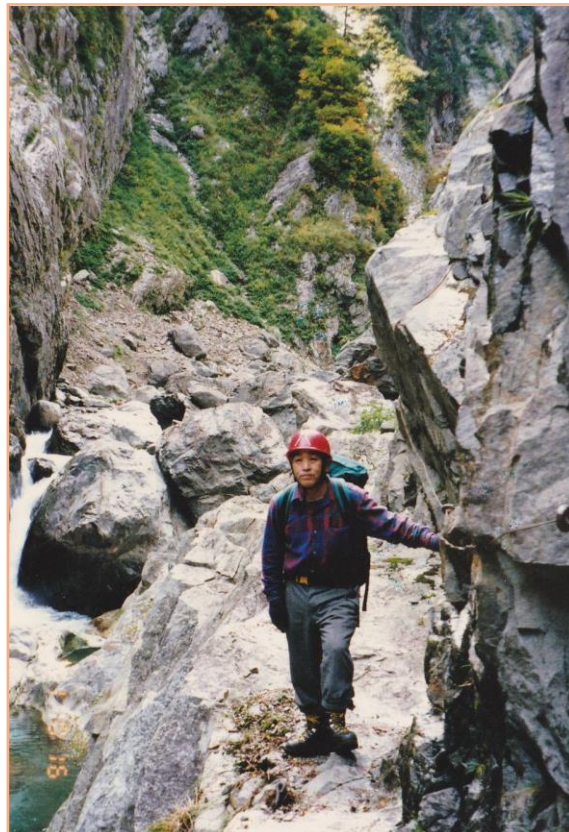
北川 清

かなり昔になるが、黒部の下ノ廊下を歩いたことがある。その若かりし頃の山行を、記憶を頼りにたどってみる。長野県大町の扇沢から関電トロリーバスで黒部ダムサイトに出て、対岸の「ロジックろよん」に泊まった。

翌朝、ダム右岸より黒部川左岸に渡り、内蔵助谷出合まで進んだ。ここからいよいよ下の廊下の核心部に入る。新越の滝を仰ぎ見て、白竜峡を進み、一度十字峡で黒部川底まで下り、また上り返した。

この辺りの道は黒部別山中腹の岩壁をダイナマイトで爆破して、「へつり」を作り、そこに丸太を横に3本並べて針金で結んで、木道や橋などに作っている。さらに谷底から高さ300~400mはある岩壁ノ横側に鉄の鎖が張り付けられて道が作られている。従って、道幅は人ひとり通れるくらいの幅しかない。この様な難路を白竜峡、S字峡と進み、歩くこと10時間、阿曾原温泉小屋に着き、泊まった。

阿曾原温泉小屋から檜平までは比較的平坦な道が続いた。高熱トンネル、ダムの作業用電車などの工事作業場を横に眺めているうちに檜平に着いた。ここからトロッコ電車に乗る。この電車はまるでジェットコースターに乗っているようだった。椅子の背もたれは低く、しかも四人掛けで狭く、トンネル内は急カーブが多かった。ただ終点宇奈月温泉駅近くの鉄橋付近の紅葉は最高だった。ここで入浴して、富山を経て帰京した。



入会 10 年を振り返って

木村 孝雄

60歳になったら会社を辞めて、残りの人生を楽しみ、充実したものにしたいと考えていた。やりたいことの 하나가山歩きだった。

もともと自然が好きで、良くドライブに行っていた。日頃の散歩でも、庭先の草花や植木、神社のケヤキやイチョウの大木・サクラの老木、大きな畑のキャベツやダイコンなど、通りすがりにとても楽しんでいる。

会に入会して丁度10年になる。入会まもなく、奥多摩水根沢の沢登りを経験した。こんな遊びがあったのかと新鮮な感覚。

北岳から間ノ岳・農取岳の縦走、あの感動は今も強く残っている。北岳の肩ノ小屋で、「あの一お風呂は？」と聞くと「木村さん、山小屋には風呂はないんだよ」という答え。「べとべとの布団1枚に2~3人」「長い長い大門沢の下り」下山後「奈良田のぬるーい温泉にゆっくりつかり、日が暮れた民宿の庭先で呑んだビールの爽快な味、夕食での語らい、ふかふかの布団」ととても楽しく満足感120パーセントだった。

この山行の感動が、今まで山を続ける力になっている。

最も記憶に残る山は「屋久島・宮之浦岳と白谷雲水峡」。一度誘って頂いたときは参加しなかった。ここは、このままそっとしておいて、DVDや写真集で見ればいい。私ごときが土足で踏み入れる場所ではない気がしたからだ。

その後何年か経って、再度お誘いを受け、思い直して参加することにした。樹齢7000年と云われる縄文杉、巨木の原生林、シダや苔で覆われた緑色の神秘的白谷雲水峡。想像をはるかに超えていた。勝手ながら入山規制をして保護すべき山、少なくともマナーは守って欲しいと思う。

ヒヤリハットは赤石岳の縦走。朝から雨の中「千枚小屋」をスタート。途中「中岳避難小屋」に駆け込む。疲労に加え汗と雨でびしょびしょ。暖かい飲み物で体を温めホッとした。小屋の人に「奥で着替え」を打診すると「荒川小屋まで1時間ちょっと、そのまま行った方が良い」とのアドバイス。出発直後体が急に冷えてきた、全身ブルブルと震え、足がガクガクした。転倒の恐怖を感じながら、自分たちの判断を通して着替えをすべきであったとの後悔が頭をめぐる。やっとのことで無事に荒川小屋にたどり着いた。8月12日、下界は猛暑。

低体温症の怖さは後で知った。自分を含め、会に生かしたい経験をした。

何より、たくさんの衝撃的な感動や楽しい語らいを共にしてくれた、多くの仲間への感謝の10年でした。

ひとり旅の思い出

鈴木 かつ子

十勝岳

パーティは先発組と後続組に分かれていました。最初先発組にいましたが、休憩をしたとき体調が悪く同時に出発することができませんでした。

先発組を追いかけようか、後続組を待とうか考えましたが、先発組を追いかけることにしました。急斜面を喘ぎながら登っていると、何組かのパーティに「1人で来たの？」と尋ねられました。「いいえ、前と後ろに仲間がいます」

そのうちガスが出て真っ白い中を足元だけを見ながら歩きました。やっと先発組が休憩しているところにたどり着いたとき、先発隊は出発しましたので、私のひとり旅は続きました。

先発組の最後尾に追いつき追い越したとき、まだまだ道が先まで続いています。「どうしよう」と思いながら左の岩陰を見ると、先発組が風を避けて休んでいました。ここが頂上なんだ！遭難しなくてよかった！

仙丈ヶ岳

ヘッドン点けて、真っ暗い樹林帯をひとりで登りました。「お婆さんだけどこかじってみよう」というクマさんに出会ったらどうしようかと心配で、五合目まで休まず歩きました。出会ったのは猛スピードで追い越していった男性が1人だけ、お天気が良かったので尾根に出てしまえばこっちのもの、行き交う登山者とおしゃべりしながらルンルン歩けました。

甲斐駒ヶ岳

六万石から岩尾根を直登するコースを選びました。ピーカンだったので登山者の姿もちらほら見えて、ひとりでも心細くありませんでした。

もしガスが出ていたら安全な砂礫コースを選んでいたでしょう。頂上でYさんと合流し一緒に下山しました。



甲斐駒ヶ岳から富士山と鳳凰三山

会との出会い

鈴木 隆司

今は昔、私が20代の頃、およそ30年以上前の事です。たまたま行った鎌ヶ谷トレーニングセンターで山の会員募集の張り紙を見つけ、早速例会に行きました。旧鎌ヶ谷図書館で、出席者数名、本間さんが梨をむき、それを食べながらの例会でした。即入会し、初めての会山行で登ったのが御嶽山（今は噴火により入山規制）でした。

群馬出身ですが、山といえば林間学校で登った榛名山と赤城山程度、大変感激したことを今でも憶えています。それからというもの山にはまり、日帰りで丹沢・奥多摩・秩父・日光・中央線の山々、泊りで八ヶ岳・雲取山・尾瀬等よく行きました。お盆休みは会の人と北・南アルプスに行くのが恒例でした。山スキーにも手をだし、白馬岳からの滑りは最高でした。今はザックをいかに軽くするしか考えてませんが、若かったせいでしょう、わざとザックを重くして登っていました。

昔こんな事がありました。松本さんと数人で日光の山に車で行きました。林道のゲート前で車を止めて歩いて登るのですが、なぜかゲートの鍵がはずされておりラッキー、そのまま林道を車で入り、山の直前まで行きました。おかげで楽できたのですが、帰路ゲートの鍵をしめられ出られなくなった事がありました。結局連絡して鍵を開けてもらったのですが……。

ここ数年山から遠ざかっております。子供が大きくなりましたら、一緒に登りたいです。



2012年7月 幌尻岳渡渉

40年前の私そして今

畑中 眞澄

東葛山の会設立40周年おめでとうございます。40年という長い歴史を少しも知らないのに寄稿させていただきます。

私の40年前はあるメーカーに勤めており、隔週で5日制が導入された時期だと思います。高校時代をワンゲルで過ごした縁で「誘われるとついでに行く」そんな感じの登山でした。お給料も安かったので洋服だけは買い足しましたが、用具は高校時代そのまま、紺色のキャラバンシューズは今でもはっきり覚えています。高くて厳しい山は行かなかったので靴下を2枚重ねにしてそんなんでも充分でした。水漏れするまで履きました。

スキーは高校のスキー教室からはじめ、世の中皆が行く時代でしたし、自分や友達の会社の寮に泊まり、電車も長い時間待っても苦にならず夜まで楽しんだのでした。でもリフトに乗れるまでの待ち時間が長く、出かけた回数割にはうまくならなかったのが残念です。

結婚して子供が大きくなって尾瀬沼と尾瀬ヶ原のハイキングに1回。子供の行ってもいい理由はお風呂に入れるとの事でそれだけでした。スキーの方は友達家族や妹家族とにぎやかでした。

月日は流れ50才になり登山する機会に恵まれ、準備としてあるメーカーの靴他をルンルン気分で購入しました。日帰り登山から欲が出て泊りの登山に行くと、二日目は足の裏親指等にマメができてつらい。登山用品店に相談して中敷きを変えたりして改善はしたのですが、まだ次の日「痛い!」。やはりキャラバンシューズが良いと思い本社へ相談に行ったら、「弊社の靴は日本人向きに幅広に出来ているので色々なメーカーの靴を揃えている店で選んだ方が?」とのアドバイスを受け小川町へ。まだまだ履ける靴を横目に足のサイズを測ってもらい一大決心して購入。やっと出会えた靴、大事にして山登りを続けようと思います。

スキーの方はみんなやらなくなってしまいましたが、京都に越した友達が戻り「のんびりスキーならいいよ」と付き合ってくれて楽しんでいます。が、ちょっと欲が出て「上手になりたいな」と思い始めました。今はリフトの待ち時間もなく滑り時なのに滑らないなんてもったいない……。こんな私ですがよろしくお願いします。



2016年8月八ヶ岳集中登山
キレット小屋にて (左端)

「東葛山の会」に入会して

星田 美恵子

「東葛山の会」を知ったのは「竜ヶ岳」への公開ハイクでした。

その前の年の公開ハイクの「飯盛山」にも申し込んだのですが、当日はあいにくの雨天でとても残念に思ったものでした。「竜ヶ岳」のハイクでは会の皆様に親切にご指導いただき、とても楽しく過ごせました。帰りのバスの中では和気あいあいとした時間が流れ、こんな風にしてまた参加したいなと思ったものでした。入会の条件などを聞き、いざ入会してみると本格的な団体で、会員の皆様の真摯に登山に向き合う姿を目の当たりにしたり、百名山を目指す方たちもいらっしやって、「あれっ！入会を間違えてしまったかな？」とも感じました。でも自分の力量で参加できる山行もあり、自分なりに参加すれば楽しく過ごせることができ、安心もしました。そして学ぶことがたくさんあります。参加してみると「漬物のつけ方」や「惣菜の作り方」なども教えていただいたり、本当にいい会に入会できて、皆様には親切にしてくださいいつも感謝しています。これからもよろしく願いいたします。



山とのかかわり

高木 保

50代になって転職せざるを得なくなり、新しい勤め先で不安や気遣いのせいか首痛になって不本意にも新生活半年ほどで休んでしまいました。学生時代の友から温泉が良いと誘われ、仲良し4人組、露天風呂と健康のための山歩きを始め「ロテレッキングの会」と称して、月に一度を目標に、出かけるようになりました。

最初に泊まった宿は奥鬼怒温泉です。女夫漕から加仁湯まで雪道を何度か転び、大汗をかいて入ったお風呂は気持ちよく、心身ともに癒された時のはじまりです

翌日オロオソロシの滝のほうへ歩いていくと、山林の中が雪に埋もれて道しるべも見あたりません。あきらめて帰る途中、女性6人のパーティに出会いました。我々の説明に彼女たちのリーダーとおぼしき女子が「ラッセル得意なのがいるから！」と元気にすれ違っていきました。プロに対するアマチュアの羨望！「自分もこんなふうには山歩きができたら・・・」と感じたことが、なぜか山登りに憧れ、スタートになったと思います。何年か後ガスの中、鳥海山の雪原を簡易アイゼンでめげそうになりながら登った時、この出合いを思い出しました。

尾瀬に誘われて夜中雷、大雨の中を、御池まで運転していったことも鮮明に覚えています。駐車場で、明け方まで中止を考えていたところ、待機中に雨がやんで青空が見えたこと。木道を滑りながら歩いたあと、木の間越しにオレンジのニッコウキスゲの大群落が目飛び込んできたこと。びっくりする度に魅力が増えてきます。

花を覚え、愛でるようになったのも山のおかげです。夏山ばかり行きましたが尾瀬ではチングルマは花穂になっているのに、立山では咲き誇っていたり、花の種類だけでなく場所によって時間が違っているのも興味深く大変面白いです。

鎌ヶ谷広報で「東葛山の会」の記事にであい、後先もなくお仲間が欲しくて応募して、入会させて戴き、とても嬉しく思います。会議の内容などをお聞きすると、相当厳しいようにも感じられ、不安に思っているところですが、ご指導をいただきながら、ご一緒させてくださるよう宜しくお願いします。



登山の魅力と東葛山の会に入会した動機

畠山 良智

登山を始めた動機は4年前に友人の誘いで登山を開始し、初めて一緒にアルプス登山したのが燕岳でした。燕岳の山小屋燕山荘から見た燕岳の頂上の美しさ、遠くにそびえ立つ槍ヶ岳、連なる山々の青々しさに感動したのが大きな動機です。

私は秋田県大館市の山沿いの村で生まれ育ち、山には馴染みがあり草の匂いとかは懐かしく感じられ、田舎育ちの山への思いがかけめぐったのです。最近では土日に登山に行かないと体がスッキリしなく、近くの高尾山、奥多摩、丹沢方面には天気がよい日は出かけています。年齢的にも運動することに心がけ、登山を健康維持のライフワークとして考えています。

一昨年、登山の幅を広げるためにテント泊する用具を取り揃えました。浮き浮きしながらテント泊を開始。最初のテント泊は鳳凰三山を縦走、天狗岳から硫黄岳、昨年は燕岳から常念岳縦走、上高地から槍ヶ岳と登山しましたが、リュックの軽量化に苦心しています。テント泊の魅力はゆっくりテントの中で自分の時間が持てる、自炊の楽しさ、大変だけどすべてを自分で準備し、片付けて疲れて帰ってくる訳のわからない達成感かな？

日本アルプスの山はまだそんなに登山していないのですが、本当に綺麗で雄大、また行きたいと思わせてくれる魅力ある山が多いと思います。登山を始めてから行った主な山は北岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、木曾駒ヶ岳、燕岳、常念岳、槍ヶ岳、立山の雄山、赤岳、硫黄岳、那須岳、会津駒ヶ岳、今年は白馬岳エリアと燕岳から槍ヶ岳への縦走を試してみたいなあと考えています。

私も今年の3月で還暦を迎えます。会社勤めも4勤1休となり土日を入れて3連休にし、登山の機会が増えるかなと楽しみにしています。登山は単独行か会社の同僚としていますが、これからは地元の方との付き合い、関係を持ちたいと思い、当会に入会。登山の楽しさ、登山の知識の習得活動などで幅を広げていきたいと考えています。入会したばかりですが、宜しくお願いします。



若さ？で登ったけど怖かった！

加藤 延子

山を始めたのが39歳、「連れていってもらおう山登り」に夢中になり、体力・技術も未熟のままに足を運んだ山々の岩峰が、この頃冷や汗もので思い出す。その一番は……。

◆槍ヶ岳→南岳→大キレット→飛騨泣き→北穂高小屋◆

『個人山行、小6年生1名（毎年アルプス一緒）を含む女性4人組』



29年前、毎夏恒例の花の北アルプス縦走の気分で、「難所多し」も軽くとらえて計画に乗った。

南岳小屋からは私達と何組かの男性のみ。

この先の急峻な岩場の怖さもイメージできずに、大キレットの岩場との対峙となった。

岩盤に印された○や→を頼りに、カルチャーでちょこっとかじった「三点支持…」を意識しながら、只々岩稜との闘い、見渡す余裕はなし、ようやく登り切り、少しホッとして飛騨側をみると、垂直の岩峰がドカーン！

まだ続くのかとガクッ！やるっきゃない前進あるのみ……。

北穂高小屋に着いた時には薄暗くなっていた。

6年生の子の身軽さは、心配もしたけど一服の清涼剤でもあった。

登山者が大勢いたら、渋滞・落石の心配もあり、ひんしゆくをかっただろう。

知らぬが仏だから挑戦できたコースだ。

小屋少し前で、27～28歳位の青年が、「もう少しだからがんばって！」と静かに抜いて行った。後からわかったが、「子ども連れのおばさん連」を心配して、後方でずっと見守ってくれていたのである。その青年は今回で山とサヨナラし、親孝行のため（アルバイトで山通いの生活）、正規の職を見つけるとの事。

たくさんの「ヒヤリハットギリギリ」を体験して今があるが、自分にはわからない大きな力に見守られ助けられて、この年まで歩けたのだ…と仲間とヨロズの神？に感謝。神様もうしばらくの間、よろしくおねがいます！

私の宝物

間瀬 芳枝

東葛山の会 40 周年おめでとうございます。

入会して 15 年が過ぎ、全国の山を仲間と共に歩くことができたことは、私にとって何物にも代えがたい宝物です。

また秘湯の温泉にも数知れず寄り道をし、山のおかげで日々の辛いことも頑張り、乗り越えることができたと思います。

山は他のスポーツと違って試合に勝つとか仲間がライバルになるのではなく、互いに協力しあい、助け合って山行を行うことに一番の魅力を感じています。

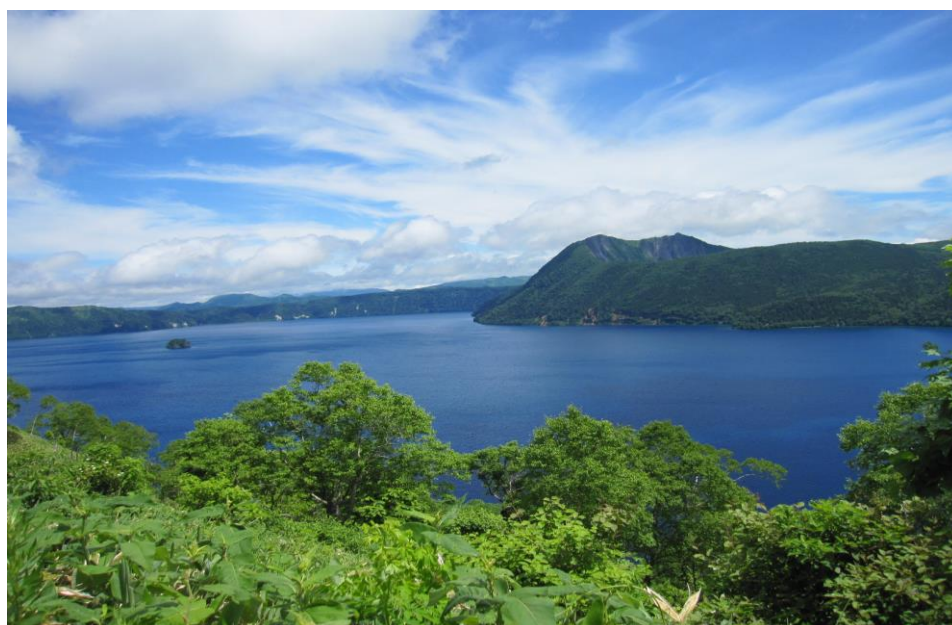
歩きを始めたころは自分がアルプスの山々へ行けるようになるとは夢にも思っていませんでした。徐々に歩きの面白さに目覚め、丹沢、奥多摩、中央線沿線の山々の日帰り登山を 3 年程楽しんでいました。

一番初めのアルプスは地元のお兄さんたちのガイド付きで白馬岳に登りました。向かったその日から雨の洗礼！私たちが向かった後、大雨で東京方面からの電車が止まってしまい、あとのお客さんが来られなくなってしまいました。

山の上で食べたお弁当は、早くしないとお茶漬けになってしまいそうな勢いの雨の中で立ったまま食べた思い出があります。初めての山小屋では濡れたものを乾かすため乾燥室にこもりました。次の日は天候も回復して素晴らしい景色を堪能できました。ガイドさんたちの適切なアドバイスとここでの非情な体験が、のちのちとても役に立ったと思います。

その後毎年少しずつアルプスの山に登ることになりました。10 年程かけて日本百名山を完登できた時は感無量でした。これも良き山仲間のおかげと心から感謝しています。

これからもできる範囲で山を楽しみたいと思っています。皆さんよろしくお願いいたします。



摩周湖

海外登山の裏話あれこれ

安彦 秀夫

このところ、会として海外の山に行く機会が多くなってきているように感じます。以前は考えたこともなかったことですが…。この5年間を振り返ってみると、私が参加した海外トレッキングは7回で、そのうち会の仲間とは6回行っています。

この7回の海外トレッキングの裏話を主に振り返ってみたいと思います。

<1> キナバル山（東南アジア最高峰 4095m）2012年3月24～30日 7名

2008年5月に、会の仲間と初めて行った時は、フィリピン付近に連続発生した2つの台風のため天候は大荒れで、山頂への登山は禁止になり、山小屋『ラバンラタ・レストハウス（3272m）』に1泊しただけで下山しました。

リベンジとして2011年3月に計画しましたが、私が突然体調を崩して緊急入院しキャンセルしました。その後間もなく東日本大震災があり、『外国から多くの支援ボランティアが来日している時に、海外トレッキングに行く気にはなれない…』ということで、残りのメンバーもキャンセルしました。私は、自己都合なのでキャンセル料が発生しましたが、残りのメンバーは、震災の影響ということでキャンセル料は無かったように記憶しています。

その後、『東南アジア最高峰の山頂に立ちたい…』という想いが強くなり、翌年2012年、山小屋に2泊するという余裕を持った日程で再挑戦しました。

山に入る前に、ガイドに『世界一大きい花（ラフレシア）を見たい…』と頼みました。直ぐ電話で知り合いに問合せをしてくれ、ちょうど見ごろのモノがあるということで、車を走らせました。見学料を払い、ご対面！でも、期待していたほどは大きくなく、大感激まではいきませんでした。それでも直径40～50cmはあったでしょうか。大きいモノは90cmもあるようです。咲く時期は決まっておらず、見頃も開花後数日間ほどだそうです。

山小屋2泊ということで、『ラバンラタ・レストハウス』を朝ゆつくり出て、途中でご来光を眺め、やっと念願の山頂に立てました。しかし、風が強く、霧が立ち込めており展望ゼロでした。記念写真を撮り直ぐ下山に掛かりました。どこまでも続く一枚岩を下っている頃から天候は回復し、展望を満喫しながら小屋に戻りました。

小屋で、登頂の喜びの余韻に浸りながら談笑していると、急に激しい雨が降り出し、小屋の後ろの岩壁が大きな滝に変わりました！流れは激しく見ごたえのある豪快な滝でした。

<2> 漢拏山（ハルラサン：韓国最高峰 1950m）2012年5月12～15日 23名

2011年5月に計画しましたが、やはり3月に発生した東日本大震災のため中止にしました。翌年、つつじの綺麗な時期に再挑戦しました。

現地の宿泊先や移動用のバスの手配などについては、『千葉こまくさハイキングクラブ』のKさんに『費用全てを東葛山の会で負担する』という条件でお願いしました。

まるまる1日かかりの登山でしたが、参加者全員が山頂に立つことができました。

山以外にも観光や食事も楽しみました。ただ、私とガイド役のKさんとの間の意思疎通がうまくいかず、一時お互いに気分を害する場面もありました。

具体的には、私が『ここに行きたい！』というお願いに対して、『そこは面白くない』とか『自分は既に行ったことがあるから…』などと言って、断ってきたのです。私はそれに対して、『私は依頼する側でありスポンサー、貴方は依頼される側で案内人でしょう！』と強く言い、何とかこちらの言う通りにしてもらいました。

<3> 智異山（チリサン：韓国第2位峰 1915m）2012年9月19～24日（県連）8名

漢拏山でガイドをしてくれたKさんから『格安航空券が手に入りそうなので、一緒に行きませんか！』と誘われ、以前から行きたいなあ～と思っていた山でしたので、参加することにしました。県連加盟の他会の仲間と一緒にした（東葛山の会からは私のみ）。

Kさんが、インターネットで参加者全員分の山小屋の予約をしていたのですが、山小屋に行ったら『予約が入っていない』ということで、受付で押し問答をしました。事前予約制なのですが、何とか交渉して、その場で受け付けをし、無事泊まることができました。

帰りの釜山空港で、チェックインし荷物を預け、しばらくしたら、同行者の一人が放送で呼び出しをされているではありませんか！私も付いて行きました。

『ライターが入っているようなのでチェックしたい』と言われ、本人は『入っていない』と強く言ったのですが、結局は入っていました。即没収され、大きな箱に入れられてしまいました。交渉して1個を貰いました。『ライター1個は、預け荷物の中には入れられませんが、機内持込みはできるのです。』皆さんご存知でしたか？ 但し、2個はダメです。

これで思い出しました。スイス・トレッキングの帰りに、ナイフを没収された人がいました。また、姪がアメリカで結婚した時、アメリカ国内移動する際に、義妹がハサミを没収されました。高価で気に入っていたモノだったので、『機長預けにして到着地で受け取ることはできないか…？』と交渉したのですが、ダメでした。以前、出張先のインドネシアで、試験機器を機長預けにして到着地で受け取ったことがあったので交渉したのですが…。『9.11』のテロ翌年でしたので、アメリカでは、保安検査がかなりピリピリしていたようでした。現在は、世界各国で、更に厳しくなっているようです。

機内持込みや預ける荷物には充分注意しましょう！

<4> カナディアン・ロッキー 2013年7月26日～8月6日 9名

『一度は歩いてみたい』と思っていたカナディアン・ロッキーでしたが、具体的なトレッキングコースが全くわからず、現地の旅行会社数社にメールで問い合わせをしました。そこで知ったガイドブックをアマゾンで入手し、何度も読み、位置関係やコース内容などを把握し、トレッキング日程を自分なりに考えました。

旅行費用をいくらかでも低く抑えたい…ということで、現地の旅行会社にトレッキングの手配を依頼することを考えました。しかし、往復の航空券は、こちらで予約しなければならず、更に、予約からチケット購入までの時間が短く、キャンセル条件が厳しいということで諦めました。ホテルも同様にこちらで予約しなければなりませんでした。

そこで、国内の旅行会社数社から見積もりを取り、何度か交渉した後、スイスアルプス・トレッキングでお世話になった旅行会社に依頼することにしました。

レイクルーズでは、夕食後、同行女性がホテルのプールで子供とぶつかり怪我をし、救急車で病院に行くという事故がありました。高速道路を1時間ほど走り病院へ行き、各種の手続きを私が代行し、治療をしてもらいました。ホテルに戻ったのは、午前3時を過ぎていました。海外の救急車乗車は初体験でした。

食費を抑えるために、現地で食材を購入し自炊をしました。**ジャスパー**では、ガイドの2人をホテルに招待し、一緒に夕食を摂りました。食事が進む中、空港に迎えに来たガイドもジャスパーに来ていることを知り合流して貰いました。ところが、既にメインディッシュは、ほぼ無くなっており、『えっ、どうするの…?』と思いましたが、急遽ありあわせの食材でおもてなしをするという見事な東葛女性の名コックぶりでした。

バンフでは、トレッキングを終え、町まで戻ってきたところで、ホテルに戻らず、急遽お願いし、バンフの町を見渡せる『トンネルマウンテン』にも登りました。ガイドに『こんなハイカーを案内したことが無い!』と驚かれました。

日本では絶対に体験できない野生動物との出会いもありました。ジャスパーのホテルの中庭に大きく立派な角を持った『エルク』が現れたり、移動中の車の横を『ブラック・ベア』や『ビッグホーン・シープ』が歩いていたり、ハイキングの昼食休憩中に『ホーリー・マーモット』が手の届く所まで来たり、岩の隙間から『ピカ』がかわいらしい顔を覗かせたり、走り回ったり…。

帰りのカルガリー空港では、滞在中お世話になった女性ガイドの『ジュリちゃん』がウルウルし始めました。それを見て、こちらもウルウルになりました。

<5> バリ島サンライズ・トレッキング 2015年5月13~19日(下見)10名

千葉県連創立50周年記念海外登山として『バリ島』の山を訪れることになり、それを聞いた会員から、『是非下見を実施して欲しい。そして、下見に同行したい…』という熱烈なラブコールがあり実施しました。

登った山は、バトゥール山(1717m)、アグン山主峰(3142m)と南峰(2900余m)で、3日間連続で、夜に登り始め、山頂でご来光を仰ぐ…という強行日程でした。幸い、3日間とも天候に恵まれ山頂を踏むことができ、大展望を満喫することができました。

特に、アグン山は、深夜に登り始めるという過酷な登山で、2日連続で登ったので、山頂で他の現地ガイドから『2日連続で登った日本人…!』と、呆れかえられました。

夕方ホテルに戻ってきて、深夜にはホテルを出るのですから、睡眠を充分に取ることができず、今思えば、『良く連日登ったなあ…』と、我ながら感心します。

現地最終日の『ウルワツ寺院』でのバリ舞踊『ケチャツ』を鑑賞するために、早くから野外ステージの観客席に座りましたが、インド洋に沈む夕日の照り付けが強烈で辛かったです。夕日が沈むとダンスが始まり、涼しくなりホッとしたことを覚えています。

その後、浜辺で波の音を聞きながら『海鮮バーベキュー』を楽しみ、夜行便で帰国しました。帰国後、保健所騒動もありビクッとしましたが、大事には至らずホッとしました。

未だに原因は不明です。一体全体あの騒ぎは何だったのでしょうかね。

<6> バリ島サンライズ・トレッキング 2015年10月14~20日（県連）24名

千葉県連創立50周年記念海外登山として、6会24名の参加で、南国の山を楽しみました。東葛からは、4名の参加でした。登った山は、バトゥール山、アグン山主峰、そして新たに追加したバトゥカル山（2276m）の3座でした。

バトゥール山では、下見で歩いたコースを逆に歩きました。下山後、林道を歩いている時に、他の会の女性が転倒し下肢を骨折し、救急車でデンパサールの病院に緊急入院し手術を受けました。何とか、車椅子と一緒に帰国はできましたが、最初の山での事故のため、バリ島では病院での生活になってしまいました。海外旅行保険加入の必要性を再認識させられた事故でした。（24名全員登頂）

アグン山主峰では、乾期終盤ということもあったのか、樹林帯の登山道は土埃が舞うという悪条件でした。夜なのでヘッドライトの照らす部分のみを見ながら、黙々と眠い身体に鞭打ち何とか登り続けました。明るくなりだした頃、急な岩場になり、風も出てきて、疲れと眠気もあり、足の動きは鈍くなりました。

岩場で休憩していると、他のパーティを案内していた現地ガイドが降りてきたので、頂上までの様子などを尋ねました。その中で、私達は日本から来たことを話したら『ミスター・アビコ…？』と急に言うではありませんか…！ なんと、彼は下見の時に2日間ガイドをしてくれた人でした。固い握手を交わしました。

尾根に出ると、風も強くなり、ガイドの『これ以上は危険だから、引返そう！』のアドバイスがあり、山頂を目前にして、下山することにしました。（12名登頂、東葛1名）

アグン山に登らなかった人たちは、キンタマーニ高原等の観光を楽しみました。

バトゥカル山では、樹林帯を登り、尾根に出て、小さなアップダウンを繰り返して山頂に着き、ご来光を眺めました。他のパーティの数人がたき火をしていました。私達はその横でナシゴレンの朝食を車座になり摂った後、記念写真を撮り、登ってきた道を下りました。登山前に『途中に厳しい場所があるので注意して欲しい』と言われていましたが、その場所が分かりませんでした。特に気になるような場所は無かったと思います。

下山後、無事3座を登ったこともあり、『昼食時には、ビンタンビール大瓶1本づつを飲みたいね！』と話しながら入ったレストランでしたが、小瓶5本しかありませんでした。それをグラスに均等に分け乾杯せざるを得ませんでした。（10名登頂、東葛2名）

最終日の夕方は、世界で一番美しい夕景スポットとして有名な『タナロット寺院』で、インド洋に沈む夕日を、連日の登山や観光のことを思い浮かべながら眺めました。その後、中華レストランにて、思う存分ビンタンビールを飲みながら最後の晩餐を楽しみ、帰国の途に就きました。

<7> ファンシーパン山（ベトナム最高峰3143m）2016年4月12~19日（県連）16名

前年のバリ島に参加した県連の仲間から、『ベトナムの山に是非行きたい。企画して貰えませんか？』という熱いお願いを受け、県連の仲間総勢16名で急遽実施しました。東葛か

らは、7名の参加で、山小屋2泊でのベトナム最高峰のトレッキングでした。

しかし、2ヶ月程前に、山麓の町『サパ』から山頂までロープウェイが開通したばかりで、誰でも簡単に山頂に立つことが出来るようになりました。そのため、最近の日本からのツアーは、登りは従来の登山道を歩き、下りはロープウェイを利用するという山小屋1泊の日程になってきているようです。

山頂直下の長い急な石段を登り、やっとの思いで辿り着いた山頂は、軽装の老若男女の観光客で混み合っており、今日設置したばかりの山頂標識で慌ただしく記念写真を撮り、登頂の余韻に浸る間もなく下山しました。

中国との国境の町『ラオカイ』で夕食後、寝台列車で『ハノイ』に翌朝着き、ホテルに移動してシャワーを浴び、部屋のテレビで『熊本大地震』を知り驚きました。その後、皆揃って鉛色の空の下、バイクの騒音を聞きながら、屋上レストランで朝食を摂りました。

『ハロン湾オーバーナイトクルーズ』で夕日と朝日などを楽しむ予定でしたが、『夜に強風』の予報があり、数時間で切り上げ、急遽手配して貰ったハロン湾を見渡せるホテルに泊まることになりました。豪華なホテルで、なにか得をした感じになりました。

翌日は、時間がたっぷりできたので、陶芸の里『バチャン村』に寄り、工房を見学した後、ハノイに戻り、市内を歩き回りました。ガイドからは、『こんなに歩き回る日本人は初めてだ…!』と驚かれました。山屋ですから平地の歩きは問題なし…ですかね!

水上人形劇を鑑賞後、流暢な日本語を話すウエイトレスの勧めに応じて、地元の生ビールを飲みながら最後の晩餐を楽しんだ後、夜行便で帰国しました。

<7> 海外トレッキングを楽しんで

毎回、成田空港に集合した時に、緊張感・不安感・期待感の入り混じった不思議な感覚に包まれます。でも、トレッキングを楽しみ、飲み物や食事を楽しんで無事帰国した成田空港では、達成感・満足感・開放感が身体中に満ち溢れています。この感覚をまた味わいたくて、『次の山は、どこに行こうかな…?』と、考えている私が居ます。

特に今気になっている山は、アフリカ大陸最高峰のキリマンジャロ、ミャンマーのピクトリア山、台湾の玉山、香港のロングトレイルですかね。

他に、これまで行ったことのあるカナディアン・ロッキーやスイスアルプスには、もう一度行きたいですね。一緒に海外の山を楽しみませんか?

この原稿を作成しながら、『東葛山の会創立40周年記念海外登山』としての『ニュージーランド・トレッキング』に想いを馳せています。

三回目の挑戦 『キナバル山』

桐生 千恵子

2012年3月27日(火)8時30分、念願のキナバル山頂に参加者全員で登頂できました。山頂は濃いガスに包まれて何も見えませんでしたでしたが達成感でいっぱい！！感謝・感激です。

1回目は2008年。ラバンラタ小屋（3272m）で台風が発生し登山禁止になり下山。2回目は2011年3月に計画しましたが、東日本大震災で中止しましたが、そして今回3度目の挑戦でした。

前日は宿に着くころから雨が降り始め、風雨は更に強くなりレストランの窓からは山肌が滝になりゴーゴーと流れるのが見えて、明日登れるのか？心配しながら寝ました。

朝の出発時には雨は止んでも登山道は水浸し状態です。夜が明けてくると景色も見えてきて、気持ちが高揚していく。朝早く出発したグループがどんどん下山してきた。



「濃いガスで何も見えなかった」「あなた達は遅く出発して展望がありいいねー」と言われる。最後のトイレのあるサヤサヤ小屋を過ぎると、山の雰囲気が一変する。すでに富士山より高い。ゆっくり歩いても苦しい。ハーハーゼーゼー岩を登って「ヤッター」4095.2mの山頂にタッチ！！

下山はガスも晴れて展望バッチリ！！『さすが世界遺産の山』全身で堪能した。サス・ピークやドンキー・ヤズ・ピークの岩峰を見渡しながら、ゆっくり歩きでラバンラタ小屋まで下る。

翌日の「マシラウ・ルート」の下山は本当に楽しかった。みんなの顔も笑顔でいっぱい。いろいろな国からのハイカーと挨拶したり、タッチしたりと長い下山もなんのその。ウツボカズラ・シャクナゲ・ラン等々熱帯植物園の中を歩いているのと同じです。

その日の宿はリゾートのコテージです。私にとっては豪華な宿です。最後の晚餐は鍋でした。マレーシアに来てやっとお腹いっぱい食べることができました。美味しかったね。

4年前のキナバルでは、お腹の調子が悪くて辛い思いをしたので、今回は水と食べ物に細心の注意をし、くいしんぼの私が腹8分目でがまんをしていたのです。

登山の前に、ガイドさんの家を訪ねマレーシアの食事と生活も覗き、世界最大の花「ラフレシア」にも会えました。登山後はポーリン温泉で遊び…と、山の他にも日本では体験できない楽しい海外の「山と旅」を1週間堪能しました。＜2012年3月24日～30日＞

ハルラ山山行記

四元一成

2012年5月12日(土)～5月15日(火)

濟州島に5月12日(土)12時過ぎに到着。出迎えのバスがまだ着いていないので、幹事さんは大変である。新しい空港なので綺麗。さすが東洋のハワイ、韓国のリゾートの島だ！3泊4日の濟州島のハルラ山登山と観光の始まりだ。

濟州島がどんな島か深く知らないのですが、ガイドブックで調べると、周囲290km、南北41km、東西73km、大きな島である。緯度は佐賀県と同じ。気候は温暖でみかんのハルラポンが有名です。

13日(日)世界遺産のハルラ山登山。我々21名とガイドの千葉こまくさハイキングクラブ2名の計23名。良い天気を期待して、5時30分にバスで登山口に到着。登山コースは城板岳(ソンナバク)コースを採る。5時43分登り始める。登りは、9.6km・4.5時間の行程。標高1950m、標高差1200mの長丁場です。登山口の横断幕をくぐりぬけ、薄暗い林の中を一列になり、2班に分かれて歩き始める。



最初の4.1kmはなだらかな道。ゆずり葉・水楡・小楡の木が多い。韓国人の歩き方は速く、抜かれてばかりです。だんだん登山する人が増えるにつれ、マナーが悪く成ってきた。追い越す時は挨拶もせず、2列3列で追い越す。ぶつかっても無言。ラジオは大きな音で音楽を鳴らしながら！今日は日曜日なので特に登山する人が多いのではないかと。若い人が多くてうらやましい。また、山ガールも多い。ダブルストックの人も多い。

第一休憩所で日本のツアーに会う。休憩所にトイレがあり、日本と比べて設備は良い。

登山道は、階段、木道と整備されて歩きやすい。登山技術は殆ど要らなく、ジョギングシューズで十分である。水もリュックも持たずに登る人も多くみられる。4.1kmを過ぎると、楯、笹が増えてくる。

第2休憩所に着き休憩。円形の形をした売店がある。メニューは英語、中国語、日本語で書かれている。値段は、例えば、カップラーメン1500ウォン、コーヒー500ウォン、等々。第2休憩所を出発すると、ハルラ山で一番厳しいきつい坂が800m程続き、ようやく山らしくなる。頂上迄後1.5km40分、道が木道に



なり歩きやすくなった。見晴らしが良くなり、頂上が見えてきたと思ったら、風が強くなり寒くなってきた。

11時25分に頂上に着く。人の多さに驚く。風が強く寒い。1班の人はツェルトの装備の練習をしていた。頂上にはスピーカーが有り、雨が降るらしいと放送していた。合羽を着、雨の準備をする。暫らくすると火口がようやく姿を現す。大勢の人でなかなか記念撮影ができなく我慢する。ようやく撮影が終わり、12時15分下山。

下山は観音寺（クムサム）コース。8.7km、コースタイムで4時間。10分ばかり歩くと晴れてきたので合羽を脱ぐ。下りは登りと違って景色が良い。天気も良くなりルンルン気分。木道が多くて歩きやすい。竜鎮閣避難小屋は2007年の台風で倒壊していた。

台風の強さに驚いた。三角峰小屋で休憩、立派なコンクリート作りの綺麗な避難小屋である。日本にもこんな避難小屋が欲しい！大きな岩が転がっている大きな溪谷があるが、水が流れてなくせせらぎの音がしない。不気味な感じで涼しさを感じない。

4時45分に23名が無事下山口に着く。約11時間の行程、幹事さん有難うございました。



カナディアン・ロッキーに行きたいね

(そんな望みを叶えていただきました)

岡部 千恵子

2013年7月26日から10日間のカナディアン・ロッキー・トレッキング。どこまでも連なる壮大な山並みと氷河、神秘的に輝く湖、パレットのようなお花畑、そして野生動物。

スーパーでの食材の買出しに始まり、キッチン付ホテルでの慣れないシステムと格闘しながらの7食の自炊。にぎやかに良く歩き、笑い、涙し、感動した毎日でした。

バンフ国立公園のボウ・レイク。2003年に起きた山火事の跡地を通り、ヘレン・レイク(1950m)からリッジ・サミット(2500m)まで歩行距離13.5Km、5時間30分のハイキング。トレイルは良く整備されていて、なだらかで歩きやすい。山火事の跡地は映像で見たことはあるが、実際に出会うのは初めて。10年もたっているが、やっと木々が生え出してきたばかり。そして、そこには、幹が黒く焼け焦げた木々が立ち、ヤナギラン(ファイヤー・ウッド)が咲き誇っていた。森に成るには、相当な年月がかかるようだ。その後針葉樹林帯を抜け、ボウ・レイクのコバルトブルーの湖面を下に、クロウフット氷河を眺め、先を急ぐ。すると森林限界を抜け突然岩峰が現れた。あれ??? ドロミテみたい!!! 何でここに??? だってあれはイタリアでしょう!!! ここはカナダ???



写真でしかお目にかかったことはないけれど、ドロミテ、まさしくドロミテです。あたりは、北米のインディアン・ペイントブラシのお花畑でいっぱいだけど……。もう、ルンルンです。カナダって、カナディアン・ロッキーって凄い。緩やかに景色を楽しみながら登っていき、小川を石伝いに渡り、広大なメドウ(草原)の中をさらに進む。すると、ヘレン・レイクが見えてきた。湖では魚が跳ねて水紋が一杯広がっている。透明度が高く、泳いでいる魚が見える。リス、ナキウサギにも出会えた。その後一気に標高差 100m を上りリッジ・サミット (2500m) に到着。カナディアン・ロッキーのレイク(湖)、氷河、ドロミテ・ピークの雄大な景色を楽しみ、今このピークに立てた事に、皆に感謝し、風が出てきたので、ヘレン・レイクまで降り、ランチタイムとする。食事をしていると、ピーと泣き声が聞こえる。ホーリー・マーモットがあちこちで走っている。なんともユーモアで可愛い。ハイカーもたくさん登って来ている。その後、来た道に戻り、花々や山に別れを惜しみながら下山した。最高の宝物を有難う。カナディアン・ロッキー幸せでした。ありがとう！



モレーン・レイク展望台

バリ島の山と世界遺産巡り

安田 甚二

千葉県連 50 周年記念の企画の中で、海外山行がバリ島登山に決まり、その下見として東葛が行くことになり参加しました。

私の中では、バリ島はヤシの葉が茂る棚田や寺院での舞踏、世界遺産巡り等を思ってきました。

今回は3日間で三座を登る。それもホテルでの仮眠休憩 5~6 時間位で…。夜半出発して頂上でご来光を拝むサンライズ・トレッキングです。



1 日目バトゥール山 (1717m) に登る。仮眠 4 時間位で 3 時出発、登山開始 3 : 30 で山頂 6 : 00 着。サンライズ観賞。

標高差 750m 位で登り易いが、祝日の為大勢の登山者で混雑していた。

下山後は、水着着用の温泉で汗を流して、昼食後風葬の墓を見学。

2 日目、今回一番のアグン山 (3142m) に登る。仮眠 4 時間位でホテル 21 : 30 発、23 : 30 登山開始。ヘッドレンの光では良く解らなかったが、道は狭く急登でけっこう危険な所も有り疲れる。上部は岩場が頂上まで続くが滑らないで歩き易い。日の出は残念ながら頂上までもう少しの所で迎える。

無事全員登頂！！

< 登り 7 : 20 ・ 下り 5 : 15 ・ 休憩を含んで 13 時間 15 分 >

3 日目アグン山サウスピーク (2900m) ここ数カ月前から踵に痛みがあるので登山は休み、近くを散策。日用品や土産の市場を覗いたりした。子供達が寺院で踊りの練習しているところ等々見られた。

後の 2 日間はネカ美術館でバリ絵の鑑賞。世界遺産の寺院巡り。王宮にてバリ舞踏鑑賞。最終日はインド洋に沈む夕日を見たり、“ケチャッ・ダンス”を鑑賞。これは男性の踊りで力強さやコミカルな踊りで感動した。

夜食は涼しい砂浜でシーフードバーベキューを頂き空港へ。

無事に 6 泊 7 日の「バリ島の山と世界遺産巡り」の旅が終了。

ファンシーパン登山とハロン湾クルーズ

北ベトナム満喫の旅

2016年4月12～19日

山口 幸雄

ハノイ空港ではアオザイのスタッフの出迎え。機内食、ハノイビールはおいしかった。ハノイは1945年9月2日の独立宣言により、ベトナム民主共和国の首都です。ハノイから車でベトナムの高原避暑地サパ（標高1560m、中国国境の町ラオカイの隣町、ファンシーパンの山麓）へ。サパ市場での花モン族、ザイ族の民族衣装は美しい。

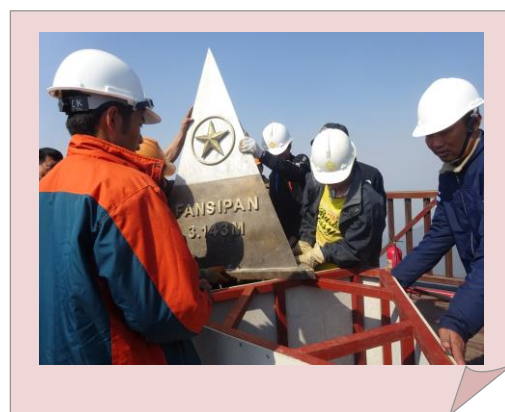
サパ付近のモン族やザオ族が耕作する棚田、棚畑が山頂近くまで続く。ゆったりしたトレッキングを楽しむ。

インドシナ半島にあるベトナム最高峰ファンシーパン（3143m）への2泊3日の登山。石楠花やいろいろな花、まわりの山々を見ながら崖の昇りくだりできつい行程ですが、時間的にはゆったりした旅です。山頂はロープウェイ利用者で大混雑です。ロープウェイは今年の2月に開通。全長6292m、標高差1410mを約15分で頂上に到達できます。山頂ではモニュメントの設置作業（写真右）に出会いました。

ラオカイから寝台列車・ファンシーパン・エクスプレスでハノイへ向かう。ベトナムを代表する景勝地ハロン湾へ。深いエメラルドグリーン的大海。石灰岩が海から突き出して出来た大小約2000の様々な形をした岩の間をゆったりクルーズ。幻想的な風景を楽しみながら船上で食事。

ハノイ市内観光（夜半に強風のため、ハロン湾クルーズ短縮）、名所名跡、旧跡めぐり。パンフレットで紹介されているすべての所を見学したように思いました。

ホーチミン廟では純白の制服を着た衛兵さんの交代の儀式も見学できました。ファンシーパンへの登山での食事以外は、レストラン、食堂共にとてもおいしかったです。もちろんビールも。



百名山の思い出

五十嵐 朝子

ツアーで行っていた頃は、山道具や装備も不十分なものでした。会に入会した時は、まだ35座で「どうせなら百名山に挑戦してみたら・・・」と先輩達に言われて、すぐその気になり即実行しました。ゴールデンウィーク、お盆、敬老の日、彼岸、体育の日の連休等は全て登山に費やしました。計画は自分達で立て、マイカーで行ける所は行き、遠い所は夜行バスにレンタカー利用と、費用のことも有るので、効率よく、二つ、三つは当たり前に登りました。今のようにパソコンで何でも調べられなかったので、資料を取り寄せ、現地と電話で確認、計画も大変です。でも、その反面計画している時は楽しいものです。一口に百名山と言っても、楽に登れる山も有れば、「人を拒んでいる」と思われる山もありました。雨の西鎌尾根、ガスっていて道迷いをして、危うく遭難になり



後方遠くにトムラウシ山

りそうになった事。女子二人での飯豊山、下山で小さなハチに気を取られ、登山道から足を踏み外し、とっさに木の枝にしがみ付き、難を逃れた事。

北は利尻山～南は屋久島の宮之浦岳、3000メートル級の山々が連なる南アルプスは、荒川三山の「タカネビランジ」の大きな株に出会い感動しました。中央アルプスの空木岳への稜線と岩の美しかった事。北アルプスは何度登っても展望が素晴らしい！

秋の東北の山も捨てがたい。

何と言っても北海道の山はスケール

が大きい。渡渉を何度も繰り返した「幌尻岳」、大雪山系の縦走、何処までも続く花畑、大きな雪渓をいくつも渡り、エゾリス、エゾシカ、キタキツネなどの動物のお出ましも登山中の心を和ませてくれました。魅力的な北海道の山をこれからも楽しみたいです。

百名山最後は「富士山」を孫と一緒に登ろうととっておいたのに、そっけなく断られました。

2013年8月26日、百名山達成！！

日本最高峰富士山から見た、雲の切れ間からのご来光と雲海を見下ろすさまに感動しました。登って感じることは、花も無く石だらけの山で、富士山は遠くで見ている山だとつくづく思いました。

おかげ様で百名山達成

村上 和子

まさか私が百名山達成出来るとは！！百名山を目指している人達の話題が聞こえるようになり、私も数えてみるとけっこう登っているの、もしかしたら達成出来るかもしれない、と挑戦することに決めました。目標を持つとまた山登りが楽しみになりました。

最初の山は、若いころ友達と二人で富士山・白馬岳の雪渓・谷川岳の紅葉。今思えば山の怖さ知らずで、ペラペラの雨具を持ち、お天気が良かったので何事もなく済んだけれど、考えただけでぞっとします。

それから、東葛山の会に入るまで、ハイキングに行ったことがなかったのですが、市民ハイクに参加したのがきっかけで入会し、今年で25年。

会山行と個人山行とツアー1回でいつのまにか百名山を達成する事が出来ました。今まで沢山の思い出が私の財産になりました。

印象に残っている山は、長くて暑い朝日連峰縦走、北岳から間ノ岳を中学生の息子と歩いた白峰三山縦走。そして、槍ヶ岳から穂高連峰縦走は、振り返って見ると槍からよくここまで歩いてきたものだと驚いていたら、直ぐ上が北穂の小屋とわかり安堵感と感激で涙がでました。

次の日、北穂の小屋を出て滅多に見られないブロッケン現象の幸運にめぐまれました。足どりの危なっかしい私を参加させて頂き、仲間に助けられ忘れられない山行でした。

最後に残った幌尻岳と飯豊山。最難関の幌尻岳は諦めていたところ、安彦会長から私の百名山達成の為に4度目の計画を立ててくださると聞き、不安でしたが私もとうとう達成出来ると嬉しく思いました。水しぶきで流れが早く足場の見えない沢を何度も渡渉。緊張の連続で必死でした。大きなカールの向こうに幌尻岳が見え、足元はお花畑。何もかも忘れ最高の気分でした。計画や手配が大変な所を本当にありがとうございました。

2015年8月7日、飯豊山頂上で目の前の雄大な素晴らしい眺めは強く印象に残っています。立派な横断幕を作って持って来てくれた仲間とバンザイ。ありがとうございました。

百名山達成に導いてくれた会長、会の仲間に感謝でいっぱいです。長いこと続けられた登山に出会えたことも嬉しい。登っている時は辛く、苦しく、“何で山なんかに来てしまったんだろう”と思うが、立止まらない限り、行く先に素晴らしい景色やお花畑があります。

自然に癒してもらい、感動をもらいつつ、これからもゆっくと楽しみながら、もう少し山歩きをしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。



達成！日本百名山

菊池 光子

深田久弥の日本百名山を意識したのは、印西市の中高年登山教室3年を終え、東葛山の会に入会した時でした。百名山を踏破した人がたくさんいる事に驚き、私は幾つ登っているのか数えてみると、残り少ない事に気付きました。でも北海道の幌尻岳、トムラウシ山があり無理・・・。

すると、会山行で北海道の山を2年続けて計画して頂いたので、ラッキー。

テント泊、食事作りと、先輩たちに教えて頂き、楽しい思い出に残る山行でした。また、個人山行にも誘って頂きました。聖岳、光岳、夫にも同行してもらった雨の大朝日岳縦走など、思い出を沢山作る事ができました。

一人で登った最初の山、鳥海山では、登る時から雨でしたが、山頂を踏んでからも更に雨が強かったので、小屋とコースを変更しました。

また、北岳・間ノ岳・農鳥岳は、天気恵まれ素晴らしい展望と余裕で写真を取りすぎて電池切れ。農鳥小屋で肝心のブロッケンを写す事が出来ず、一緒になった登山者をお願いし郵送して頂きました。

続いての上河内岳での虹の写真は、登山者がひとりも居なく残念。

最後、二山になった開聞岳と韓国岳。夫の実家の九州に帰る時に立ち寄り登れば良いと思っていましたが、急に70才までに全て終えようと思いました。

初日は高千穂峰に登り、下山途中、元気のよい人懐っこい五歳の男の子と一緒に、記念写真をせがまれてうれしかったですね。

韓国岳は大浪池登山口から硫黄山に下山したかったのですが、硫黄山の登山規制の為、往復の予定で神秘的な大浪池を周り山頂へ。

しかし、山頂で出会った地元のおじさんが、硫黄山の登山口へ下山するというので一緒に下山し、不動池、六観音御池などを見ながら下山しました。

車に乗せてもらい、途中、坂本竜馬公園(お龍新婚湯治)、嘉例川駅(百年の木造駅舎)など見学し、鹿児島空港まで送って頂き、百名山をお祝いして頂きました。

最後の開聞岳の山頂は何处？ ここ！
遠くから眺める円錐形の山容で、すてきな山ですね。富士山と同じようです。

日本百名山を終えてみると、大勢の人達と楽しく山に登り、たくさんの思い出が出来ました。有難う御座いました。

これからも、体力の続く限り山登りを楽しんでいきたいです。



100 名山を達成して

石塚 洋子

今の気持ちは、まずは「ほっとした」というところです。

東葛山の会に入ってから、たくさんの先輩方が 100 名山を終わらせても「私には関係ない話」と思っていました。

それが入会してから会山行の北海道の 100 名山が終わり、少し弾みがつきました。そして、会山行で鳳凰三山や焼岳を登り、四国の剣山、石鎚山に誘われ、剣山では景色の良い次郎笈まで足を延ばし、とつても嬉しく楽しい登山でした。

そのころから何となく意識するようになり、95 座を超えてからは「達成してみよう！」と思うようになりました。

待っているのはチャンスがきません。

皇海山は、2 年がかりで 3 度目にやっと庚申山から行くことができました。

白山、荒島岳は冬から計画し、夏の良いお天気の時に入会したての女性 2 人を誘って行きました。荒島岳は、中出道から勝原まで縦走できたのでとつても満足でした。

大台ヶ原は、大杉谷とセットに 1 年かけて計画し、通行を解禁したばかりの静寂な大杉谷を会の先輩女性 2 名と歩きました。

最後の山は、乗鞍岳です。

お花の頃に千町尾根から見事な大展望の 100 座を達成しました。

振り返ってみますと、私の 100 名山は 22 年前の富士山が 1 座目です。

それまで山の経験はなく、息子とツアーで行った富士山のご来光がすばらしく感動しました。この頃、学生時代の友人に平標山に連れていってもらい、混み合っている平標山の家で 2 枚の布団に 7 人寝かされました。それでも「山が楽しい」という気持ちの方が大きかったです。

「100 の山にそれぞれの喜びがある」
それぞれのメンバーとの楽しい山行は、
私のお宝になりました。

山を始めてから、パソコン、デジカメ、
スマホを覚え、山の友人も増えていきま
した。

これからも皆様と山を楽しんでいきたい
です。



乗鞍岳

登山をはじめて

嶋本 道子

私が本格的に登山をやり始めたのは、2003年に中高年市民の為の登山教室（印西市教育委員会後援）が開催され、第一期二年、第二期二年と四年間参加した時からです。

最初のうちは、奥多摩などの日帰り山行に参加して、小屋泊の山行になったらやめようと、軽い気持ちだったのです。

教室では、一年目は月に1回、二年目は全員で北アルプスに行こうという目的で月に2回行って、山に登れるようにステップアップしながら山行を考えてくれたのです。（それで山行計画を立てるのが苦手なのかしら？）

それでも月に2回山に行くという事は、とても忙しかった覚えがあります。

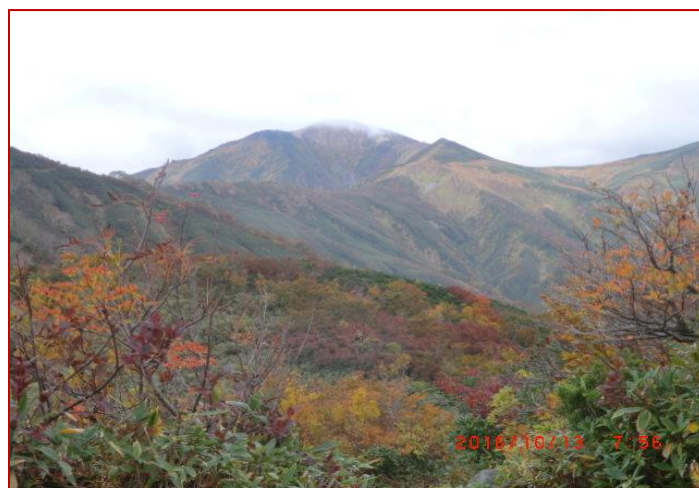
始めて4ヶ月で表銀座縦走のチャンスに恵まれ、何も分かりませんでしたが思い切って参加しました。その時の合戦尾根の苦しさ、槍ヶ岳に登った時の感動、雨に見舞われた辛さ、高山植物のきれいな事、梯子と岩登り、おもしろい！！とってしまったのです。今でも忘れられません。

それから教室が終わってしまい、三年間ブランクがあり、東葛山の会に入会（2010年4月）させて頂き今年で六年目。最初の二年間はひたすら会山行（月2回）に参加、北海道山行、九州山行にも積極的に参加しました。個人山行にも声をかけて頂き、穂高、鳥海山、飯豊縦走と忘れられない山々が沢山あります。

お陰様で今年10月13日、山形県と新潟県の県境、紅葉のすばらしい大朝日岳で百名山を達成する事ができました。

いろいろな方々の御協力と応援のおかげで終える事が出来たと思っております。

有難うございました。



（大朝日岳）

房総の山 50 選に登る

高見 信明

千葉県勤労者山岳連盟創立 50 周年記念行事「みんなで登ろう房総の山 50 選」
安彦会長が、山行行事の実行委員長に決まり、50 周年にちなんで選別された 50 座です。

20 座近くは 1 度は登った山ですが、50 座を 2015 年 10 月から 2016 年 3 月までに登らなければなりません。

「キックオフ鬼泪山」に参加したとき、私の車に同乗した北川、三橋、菅原 4 名が、50 座に登ってみようかと意気投合、50 座に挑戦することになりました。

千葉県の最高峰「愛宕山」408m には、会員バスで 23 名が参加しました。

この山は自衛隊の管理下で普段は事前に許可を得なければ入れない（登れない）山です。

当日は開放日で、シャトルバスに乗り換え自衛隊の門を通りました。

愛宕山山頂 408m で、自衛隊員から「各県最高峰で最も低い千葉県最高峰登頂記念証」を受け取りました。ちなみに私は登山者番号 429 番でした。

- ① 2 万 5 千分の地形図 ② 千葉の山のガイドブック ③ 図書館で 50 座に関する本を借りる ④ 道路地図 ⑤ 安彦会長の全山踏破記録表

まず始めたのは、道路地図を張り合わせ 50 座を地図上に明記し、全体像が見られるようにしました。

どことどこが 1 日で登れるか、どう計画し登山口はどこからなのかなどなど、地形図、ガイドブックや図書館の資料等で検討することで楽しくなり、益々やる気になってきました。安彦会長の全山踏破記録表が、その後の山行におおいに参考になりました。

4 人が最初に目指したのは、11 月 10 日鋸山、嵯峨山でした。その後大福山・御嶽山（ロングハイクの石尊山から眺めたクラゲ山）・三石山、御殿山・大日山・伊予ヶ岳・富山、館山民泊で津森山・人骨山・金毘羅山・城山・房の大山・高塚山・経塚山、会員バスで烏場山、八郎塚・高岩山・安房高山、久留里愛宕山・上総富士・大塚山、ロングハイクで津辺野山・石尊山・清澄妙見山、三郡山・山の神・豊岡愛宕山・関大塚山、元清澄山、鴨川富士・とび巖山・江見大塚山・高鶴山・峰岡浅間、野野塚・殿中山・三条大塚山・大多喜高塚山・伊藤大山。3 月 17 日野見金山・浅間山・音信山・御所塚山で終了（キックオフ鬼泪山で鹿野山と水室山、最高峰の愛宕山でも二ツ山に登頂済み）しました。

50 座完登の日には安彦会長の参加でおおいに助けられました。私の車がパンクしてしまいました。安彦さんの車でスタンドを探しタイヤを購入、無事御所塚山で 50 座完登を 17 日間で達成することができました。

楽しかった房総の山50選

三橋 和子

会創立40周年を迎え、先輩方が築いてきた歴史に敬意を表します。

私は60歳の定年後、旅行三昧の毎日で食べてばかりで体重は増える一方でした。これはイケナイと思い、近所の友達に誘われて筑波山に登りました。キレイな空気と健康にも良いということで、これを機に柏の山の会に入会し、月1回の山行を5年間続けました。

孫が次々に生まれて、柏から鎌ヶ谷に転居したのがH19年。引っ越しと子育てで2~3年山から離れていましたが、一寸顔を出したふれあい祭りで、鎌ヶ谷にも山の会があると知り、家事育児の合間に山に行きたいという思いがつのり、70歳で東葛山の会に入れていただきました。

先輩達の活発な活動を見て元気をもらい、夢中で1年が過ぎる頃、3人目の孫に双子が生まれて育児に2年間専念することになりました。ストレスがたまりにたまってH22年に蓼科山から思い切って再デビュー。八ヶ岳や屋久島、佐渡と先輩達と思い出多い山行ができました。そうこうするうちに、体に異変が。尿路結石の手術後痛み止めの注射が身体に合わなかったのか、目眩で3ヶ月も寝たきり状態でした。

1年たった頃、身体も回復してきました。ちょうど房総の山50座の話があり、高見さんの車に北川さん、菅原さんと4人で10月から半年かかって50座を完登することができました。私にとって最高の思い出です。あと少しで80歳になりますが、歩けるうちは山行に参加したいと思います。



東日本大震災支援活動参加

加藤 延子

2011/3/11 東日本大震災発生、千葉県連盟は 4/7 より支援に入り、2012/3 までに 22 回、433 人が活動を行いました。

活動の継続を望む声に後押しされ、2012/3/21「NPO 法人ちば労山ゆう」が設立され支援活動が継続されています。

「NPO 法人ちば労山ゆう」になってからの支援活動（2012/4～2017/3）

年月日	場所・作業内容	参加者	人数
2012/4/27～30	牡鹿半島（谷川浜・寄磯浜） 瓦礫撤去	高見、安彦、谷内、加藤、三橋	5
6/15～17	牡鹿半島（小網倉浜） 瓦礫処理	加藤、渡辺実、八巻、前田延、鈴木隆、梅田	6
9/14～17	牡鹿半島（谷川浜） ホヤ種付の準備作業	加藤、羽鳥、梅田	3
10/21	安達太良山鎮魂登山	安彦、加藤、佐野、前田延、村上、鈴木隆、石塚、八巻	8
11/29	石巻支援の夕べ 船橋市中央公民館での応援コンサート	北川、安彦、加藤、桐生、村上、小林、佐野、高見、伏見、前田延、山岡、五十嵐朝、江崎、山脇、梅田、逢地、羽鳥、高橋	18
2013/7/13～15	牡鹿半島（谷川浜） ホヤ種付の準備作業	加藤、渡辺実、佐野、八巻	4
2014/4/11～14	牡鹿半島（給分浜） 海藻類仕分け作業	加藤、村上、鈴木か	3
2015/11/27～29	南相馬市 室内家財搬出	加藤	1
12/5～6	東北被災地復興視察& 忘年山行 牡鹿半島	男 17 名 女 14 名（東葛山の会独自）	31

2016/3/31 現在 正会員 104 名（東葛 4 名）賛助会員（東葛 11 名）

谷川浜・寄磯浜 山の会ならではの急斜面作業

報告文 やまびこより抜粋

安彦：今回は地元の人達とわずかな時間ですがお話をする機会を得ました。『ワカメ漁師の方々（小湊浜）』、『牡蠣殻を使ってのホヤ養殖用仕掛けを作っているの方々（谷川浜）』、『名産の硯職人のご夫婦』、『被災された年配のご夫婦』等々。どの方々も被災時



の凄惨な様子を話されながらも、以前の生活に戻るために一生懸命努力されている姿勢に、勇気・元気・やる気等のエネルギーをもらいました。
2012/4/27～30

梅田：小網倉浜、重機が整地した後の残渣すなわちゴミ拾い、あるいは掘出しといった地味な作業、それも可燃物や金属、プラスチック等々と分別して収集する人海戦術でした。地元の漁師代表から生々しい津波被害話を聞きましたが、家具・漁具一切を失い呆然として何もする気になれなかった日々、ボランティアが来て働く姿をみて「自分達も立ち上がらねば…」と、気持ちの支えになったとのうれしい一言もありました。
2012/6/15～17

小網倉浜のゴミ拾いと選別



鈴木隆：東北には月に一度は仕事で行っていましたが、ボランティアは初参加。最後の日に、女川・石巻の被災地を見て回りました。多くの子供たちが犠牲になった大川小学校が、被災された状態で残っており心を痛めました。個人としての力は微力ながら復興支援に力を注いでいきたいと思えます。
2012/6/15～17

前田延：湾内を一周する船を出してくれたのですが、人数制限で静岡の方に譲ることにしました。水沼交流センターの席上で、宮城県の方のマッキンリー遭難の悲しいニュースが伝えられました。初参加をしてみて、現地のボランティアの方たちと、遠くから来る人達の連携プレーを、もう少しうまくやって、時間の無駄を少なくできたらよいのと思いました。待ち時間が長かったです。
2012/6/15～17

羽鳥：1時間ごとに休憩をはさみながら「がらあけ」、ホヤ種付用の牡蠣の貝殻に穴をあける軽作業を、機械を使ってと、カナヅチとで体験しました。同じ作業を繰り返すのは結構大変でした。一仕事を終えて満天の星空の下でたき火を囲みながらの夕食会は盛り上がりました。たき火の火力が強すぎ、消防が来て「火の用心」するよう指導されるハプニングもありました。

たき火焼き魚味最高！たき火も心も燃えました！



安達太良山鎮魂登山：大型バス2台、89名が参加して、被災者への鎮魂、原発事故で故郷を奪われ、故郷に帰れず苦しんでいる方々への応援メッセージを届けました。
2012/10/21

八巻：帰る途中で寄ってもらった女川小学校では、近隣で亡くなられた方たちの碑が建てられていました。前には見に行けなかった校舎の後ろの方も見る事ができ、改めて地震の大きさに驚きました。瓦礫等は綺麗に片付いてはいましたが、復興にはまだまだ時間が・・・。新しい家も少し建つてはいましたが・・・。
2013/7/13～15

小湊浜でのめかぶ削ぎ作業

鈴木か：小湊浜はメカブを湯通しする湯気が、あちこちで立ち昇り活気にあふれ、若い人も意外に多かったです。

お手伝いのお宅で伺った話では、津波ですべてを流され、長男を亡くされ仮設住宅にお住まいとの事。それでもご夫婦共笑顔を絶やさず、半人前の私達が来たことを喜んで下さいました。
2014/4/11～14



村上：浜辺でメカブのそぎ落としを手伝い、面白いようにスーときれて楽しかったです。♪。午後から塩ワカメの袋詰め。冷凍庫にまだ沢山在庫が残っていると聞き、3人とも思いは同じで、少しでも在庫減少に協力しようと励みました。

養殖、漁船漁業で益々再興してほしいと思いました。
2014/4/11～14

羽鳥：東北被災地視察&忘年山行：女川でワカメ袋詰め体験をしました。

女川で ワカメ選別 袋詰め 登山替わりの ささやか支援
大漁旗 バックに記念 写真撮る 牡鹿の宿で 忘年山行
湯上りに パンツ無くなり 大慌て なぜか隣で 二枚履く人
波高し 金華山行き 船が出ず カキフライ食べ 山頂仰ぐ 2015/12/5～6

東北被災地視察 南三陸町防災対策庁舎(一時保存)



「NPO 法人ちば労山ゆう」が設立され、身近でボランティア活動をする機会を作って頂いたことに、一緒に活動して下さる仲間がいることに感謝！「出来る時に、出来る人が、出来る事を」の言葉がいいなあー。肩の力を抜いて力まずに参加させてもらいました。

ボランティアの内容も変化し、千葉県産の水仙の球根を植えた花壇が日和山の下、門脇小学校前に設けられたとの事。
地域・被災地との交流

スを見つけ細く長く参加できたらうれしいです。

の深まりを感じます。仲間とチャン

加藤 記

ふれあいまつりと新公民館

四元一成

35年間使い慣れた公民館。鎌ヶ谷市公民館の中心的存在として、長い間ご苦労さんでした。旧公民館まつりの会場は、地下1階から地上4階に分散して纏まりが有りませんでした。来館者がなかなか3階の展示会場迄足を運んで来てくれなかったもので、集めるのに苦労しました。しかし展示スペースは十分あったので、楽に展示できました、

最後の公民館まつり（2014年）は大雪に見舞われ、来場者が少なくても、思い出深い催しになりました。この時、東北復興支援の一環として、海産物の販売を始めました。

新しい公民館は、展示会場が3階の同じフロアに集中しているのです、まつりの運営がスムーズに出来るようになりました。来館者数も今までとは『雲泥の差』ほど多くなって来館者数のカウントをやめました。旧公民館時代は、来館者数をカウントしていました（毎年約130人位）。会員の努力もあって「東葛山の会」の存在を知らせる事が出来るようになったと思います。

新しい会場は設営が大変でした。パネルの枚数が違う。展示のスペースも違う。何もかもが新しく経験する事ばかりでした。しかし、来館者が増え、やりがいがあり、「東葛山の会」の存在を市民に知らせる良い機会とすることができました。

これからも会員の皆さんの協力をお願いします。



旧公民館の展示会場

旧公民館での例会風景



東葛山の会・5年間の出来事と変遷

梅田 尚志

2012年3月に入会して満5年には少しだけ足りないが、様々な出来事や移り変わりを実見してきた。入会早々は直前の35周年記念の美ヶ原山行の話をよく聞かされたし、前年夏の双六岳集中登山の思い出も楽しそうに話すのを何度も聞いたのを記憶している。厳しそうだけれども楽しめそうな会と巡り会って、どっぴりと浸かってしまったこの5年間で振り返り、会の運営や検討事項等思いつくまま記述してみたい。

1. 例会・総会その他会議場の変遷

2014年4月、現在のきらり鎌ヶ谷市民会館新築に伴い、三橋記念館（旧中央公民館）から移転した。月2回の例会もそうだが、特に総会の出席率は驚くほど高い。その会議室が、快適な設備の部屋になったのは良いが、狭く毎回40名前後が出席する例会では、10数名分の机と椅子を運び込み、また片付ける必要が生じた。さらに、満員の部屋は息苦しいとの声もあって、バッティングしている鎌フィル練習室との交換交渉を繰り返したが、不成立であった。また時間や他施設への変更も提案され協議したが、賛同を得られないまま現在に至っている。

交通の便や打合せコーナー等の使い勝手を総合的に考慮して、会員急増さえなければ当面の運営は可能との判断かと思う。部局の各会議室として使用する際は、良い環境で快適に使用でき、また総会の会場としては集会室も、第1学習室でも申し分ないといえる。

第二例会時にインドア講習会をよくやっていたのだが、2013年に高橋さん、2015年に吉田さんが退会してから、山道具や登山行動スキル等を共有する機会が減っているようで気がかりではある。知識と経験を承継する必要性が見直され、多数在籍している超ベテラン達の折角の知識を広く伝え、より安全で楽しい山行に繋げたいものだ。

2. 公民館ふれあいまつりと公民館新築

毎年2月の週末に公民館の行事として開催され、所属する各団体が発表や催し、展示を行う。当山の会も展示に参加して市民に登山の魅力をアピールし、また会員募集の役割も担っている。これも新公民館新築移転以降、様変わりをした。旧施設の公民館に比べ、天井が高く明るいホールでの展示は来場動員も増え、山道具や写真の展示に関心ももたれた。

また、2014年2月（13年度）のまつりから、東北復興支援のためのワカメ等の海産物販売を始め、毎回完売している。売上収益は「ちば労山ゆう」への寄付、「当会ボランティア活動補助資金」として役立たせている。翌年からは新公民館となり来場者も多くなったのだが、出店場所や時間制限で売上げは限定されている。それでも当会展ブースを訪れる市民が増え、山への関心を深めてくれるように続けてきた。会員勧誘の機会として、また展示された写真を見ては懐かしく山行を思い出す機会にもなってくれる。

3. 会山行とバスハイク

わずか4-5年前のことだが、会山行が鎌観のチャーターバスで盛んに行われていた頃が懐かしい。2012年4月、関越自動車道の高速バスで運転手の居眠りにより7名が犠牲になる大事故が発生した。高速バス運行会社のブラック体質が露呈したものとみられるが、これを契機に行き過ぎた価格競争を制限し、運転手の待遇を改善することで安全を確保するよう、政府が舵取りをした。

統計を取ってないので詳らかではないが、最近のバス利用山行は大きく減っているものと思われる。バスチャーター見積が急騰したのが理由である。何よりも人件費が大きく響くため、1人運転手が出庫から帰着まで「13時間ルール」の範囲でないと採算があわないことになる。目的の山登りのための手段としてのバス利用は限定されるが、怯むことのない我が会員たちは、公共交通でもJRのとくどく切符や高速バス、自家用車やレンタカーなどあらゆる足を使って山を目指し続けるのだ。

市民向けの公開バスハイクは別掲している通りだが、これこそバスハイクで多数の市民が、近場ではあっても身近に山登り体験ができ、登山に対する理解を育み我々との交流を図ることができる絶好の機会となっている。

4. 山行計画の立案から催行まで（山行管理）

山行計画書の整備が進み現在に至っている。会山行の場合は、総会で決められた年間計画の担当リーダーグループから山行計画案という起案書を、3か月前の山行部会に提出し、審議を経て例会及び会報で募集される。また山行の難易度を☆の数で表し参加可否を判断することができるようになった。個人山行における山行計画書も☆★表示が有効となった。他の会に倣って、会員個人の技術体力経験値等をレベル分けする案も出てきては、決まらずに燻っている。会員の高齢化という別のファクターがあるので、現実的な運用がなされて

いるといったところかと思う。山及びコースのレベルは各県でも制定されており、それを参考にして計画すること、またWEBから情報入手し、Eメールで計画書を配信し、携帯メールも山行中に活用して下山報告するなど歩き方も変わってきた。この数年のスマホ環境の進化が山にも押し寄せている。天気予報の精度も上がり、目的の山の気象情報もスマホで得られる。

会員の高齢化に伴い2014

事故連絡カード	記入者 ()		
事故者氏名	()	男・女	年 月 日生
	血液型	保険	登山基金 <input type="checkbox"/> 他()
住所	〒		
緊急連絡先	関係 <input type="checkbox"/> ()		
所属団体連絡先	東葛山の会 会長 安藤秀夫 (自宅 04-7198-5688 携帯 090-5827-0571)		
事故状況	H 年 月 日 時頃		
発生日時・場所			
原因と内容(詳しく)			
事故者の容態			
これまでの処置			
その他注意事項	個人から記入		

個人カード(東葛山の会)	
氏名	男女 血液型 年 月 日生(才)
住所	〒
緊急連絡先	関係 <input type="checkbox"/>
保険	登山基金 <input type="checkbox"/> 他

病歴・持病・服薬箇所	
その他つけ病状(痛風)	<input type="checkbox"/>
現在使用中の薬	
アレルギー	
注意事項	

上：事故連絡カード

下：個人カード（表・裏）

年から「ウォーキング」ができ、緩い山よりもさらに楽なハイキングを主目的に毎月活動するようになったため、3段階のレベルで参加コースを選択できるようになった。

また、特筆すべき出来事としては2015年に事故防止対策のための「事故連絡カード」と「個人カード」を全会員対象に作成したこと。それまでなかったことが不思議なくらいだが、毎山行時各人が携行し、使うことがないようにと思いつつも不測の事態に備えるべき組織としての重要な措置ができたと言えよう。

5. 会報「やまびこ」の発行

会報「やまびこ」をこの5年間も毎月発行してきた。会員の皆様の寄稿のおかげで山行報告や、山行案内、またさまざまな企画記事を掲載してきた。費用を抑えて、自分たちで編集印刷・製本を一月も休まず続けてこられたのは、山が好き、会が好き、そして会員が喜ぶのが大好きな会報部員の弛まぬ努力があったからだと思う。

例会記録を掲載しているが、議事をどこまで記録するかは部内で何度も話し合った。結局は取材というレベルで、担当部員の裁量とする現在の形で推移している。また一同に会する機会を取りにくいので、2014年からは、メール上で校正・編集を事前に済ませるようにし、編集会議は短時間でできるようになった。2015年には、カラーレーザープリンターを更新し、紙詰まりや無駄な待ち時間が減って多少は効率も良くなった。また、事務局と協力して2016年からは、新ホームページを開設した。ホームページの機能を活用して、40周年記念誌「みちしるべ」の編集作業に取り掛かった。

6. 県連関係・その他

千葉県勤労者山岳連盟に所属する団体として、連盟の恒例行事や特別イベントに参画し、協力してきた。クリーンハイクやふれあいハイクといった社会奉仕もあれば、房総ロングハイクや女性登山交流会など毎年の楽しみとなっているものもある。セミナーや交流会にも適宜参加して県連活動を盛り上げてきた。特に県連創立50周年に当たる年、記念事業の海外登山と房総の山50座は、安彦会長が県連のリーダーとして海外ツアーを企画遂行し、高見さんが書いている通り、房総の山50座の実行委員長として全山踏破し、他の各団体会員をも牽引しその記録をまとめた。

NPO法人「ちば労山ゆう」が主導してきた東日本大震災復興支援ボランティアは、直後の活動から5年余り経過する中でのかわり方を、加藤さんから詳しく報告されている。

2015年8月には山の日が制定施行された。当会の大方の職場リタイヤ会員には無用ではあるが、休日となったことによって国民全てが登山というものを考える機会を与えてくれた。BS放送等チャンネルが増えたことも後押ししているが、テレビ放映も登山関連番組が増え、録画しておいても見る時間が取れないほど多くの映像が楽しめるようになった。会山行で大菩薩の介山荘でロケ隊と同宿することもあって、それは後日画面で楽しむことができた。様々な思い出と重なる絶景が映し出された時、自らを包んだあの感激が蘇るのだ。

若い人たちが山に戻ってきてくれたと感じる5年間であった。この山登りブームが静かに、しかしなが一く続いて欲しいと・・・誰もがそう願っていることであろう。

公開ハイキング

竜ヶ岳

2013年10月27日

市民23名

会員26名



飯盛山

2014年5月25日

市民24名

会員20名



竜ヶ岳公開バスハイキング

永木十三夫

平成 25 年竜ヶ岳公開バスハイキングについてまとめてみました。

〈準備〉

- 5 月 10 日 第一回担当者打ち合わせ（10 月 27 日実施、竜ヶ岳に決定）
- 6 月 1 日 予察
- 8 月 15 日 「広報白井」掲載申し込み、「広報鎌ヶ谷」掲載申し込み
- 10 月 2 日 第二回担当者打ち合わせ（参加者確認、説明会の準備と分担）
- 10 月 13 日 参加者説明会
- 10 月 14 日 市役所駐車場申し込み
- 10 月 23 日 会員参加者の役割分担と班編成（例会）
- 10 月 25 日 保険「短期掛け捨てプラン」申し込み

〈当日〉

台風一過、雲一つない素晴らしい天気でした。

午前 5:30 鎌ヶ谷市役所を出発。（一般参加者 24 名、会員参加者 26 名）

予定どおり本栖湖キャンプ場に到着。体操、トイレの後、登山開始。

台風の後で足元が悪いのではと心配しましたが、心配するほどのことはなかったです。

目の前に聳える富士山と紅葉を楽しみました。

一人のけが人もなく、ほぼ予定通り無事下山することが出来ました。

〈反省会〉（意見と感想）

- ・コースについて
4 時間ぐらいでちょうど良かった。ピストンは正解でした。
足がつる人もいた。これ以上長い時間だと大変でした。
- ・説明会
「公開ハイキング」で募集すると、全くの初心者がたくさん集まりました。募集の時
「登山」という言葉を入れると良いのでは。
- ・会員の協力
協力していただき助かりました。
- ・事前準備
班長との話し合いの時間をきちんと取るべきでした。
- ・バス
一般会員の席は前方の方が良い、後ろではかわいそう。車酔いの人への配慮を。
- ・公開ハイク
年々、会は高齢化しているため、責任をもって一般参加者の面倒を見ることが困難に
なってきました。今後も続けるかどうか話し合いが必要ではないでしょうか。

公開バスハイク「飯盛山」

池谷 通隆

長い準備期間が終了し、いよいよ山行当日を迎えた。

5月25日（日曜日）5時30分、新幹線に優るとも劣らない正確な出発時刻、バスは市役所を出発。市民24名、会員20名、誰もが眠いようには見えない元気な挨拶と爽やかな笑顔で班長さんをご対面。何だか先行きが楽しみの多いハイキングになる〈予感〉がする。

朝が早いせいか、中央道はスイスイ。石川と双葉のPAで休憩をとったが、平沢峠の駐車場には予定より早い9時に到着。

今朝の八ヶ岳は霞んでいて写真を撮るには良くない。トイレ・体操そして班長さんから注意事項の説明があって、9時30分登山口を出発。

スタートしてから30分くらいで休憩をとろうと考えたが、山道が狭く開けた所がないので止まらず歩く。班長さんが、市民の足を気遣ってゆっくり歩いてくれたお陰で、結局1時間ノンストップで歩く。でもみなさん元気そうでホッとする。

そのうちに森がぱっと開けて空の下に出る。行く先に〈大盛りごはん〉のような山が見えてきた。まさに「飯盛山」だ。「この辺りは例年だと山つつじが沢山さくはずだが・・・」と、山の住人(?) Fさんが残念がる。今年は、まだ蕾が固い。麓は新緑の季節に入っているのに、この辺りはまだ芽吹き of 時期だ。しかし、ひと月前の下見の時には、全くの冬の様相だったから、春はそこまで来ていることが分かる。

もう一息頑張っって班毎に山頂にたどり着き、記念写真をパチリ。あまり苦しくなかったようで、皆とてもいい笑顔。

結構大勢のハイカーが来ているので隣の小高い所に移ってランチにする。八ヶ岳の展望が良ければ、おにぎりがもっとおいしいのに。

11時30分、集合写真を撮って下山開始。段差の大きな階段や凸凹悪路に苦しむも、何とか無事に下る。一服後は、フキが密集する林に入る。この山道、安全だけど整備され過ぎていて、山道を下っている気分にはなれない。でも、新緑が美しい。歩きやすいので市民のみなさんにとっては、快適なハイキングコースかも。

休憩なしで1時間下って、平沢村の市民センター駐車場に到着。ここから「たかねの湯」まで20分程走る。団体貸切りのようなお風呂にゆっくり75分浸る。気持ちイ〜イ。入浴後の一杯もノドチンコがうれしそうにシビレている。ここでの市民との交流の場は貴重だ。

皆いい気持ちになって帰路のバスに乗る。ひと寝入りしたら着くだろうと思ったが、やっぱり日曜日だ。一時間以上の渋滞にはまる。でも、バスの中で山の会のPRとホームページの案内もできた。後日幾人からもお礼の手紙を頂いた。又、次回も参加したいと言ってくれたのはうれしい。

市民のみなさんのがんばりと、班長さん以下のご支援のお陰で、計画時に苦しんだリーダーとメンバーの疲れも飛びました。ありがとうございました。

忘年山行あれこれ

安彦 秀夫

毎年12月に、恒例の忘年山行を実施しています。この5年間の様子を振り返ってみたいと思います。

<1> 甲子温泉 元湯甲子温泉大黒屋 (2012年) 27名 (男性12名、女性15名)

12月15～16日に実施しました。初日は、『丹波楯山』に落ち葉と僅かな雪のある樹林帯の中を歩き、真っ白な山頂に着きました。

新甲子トンネル駐車場で宿の迎いのマイクロバスに乗り換え、銀世界の中の一軒宿に着きました。私は、皆がくつろいでいる時間を利用して、翌日の『甲子山』への道を確認するため、足跡の全く無い雪道を歩き、1時間ほど往復しました。

朝起きたら、みぞれ気味の天候でしたが登ることにしました。歩き始めは、前日の足跡を辿り順調に進み、その後、雪で覆われた笹の急斜面をジグザグに登り、稜線に出ました。



風が強く、雪はところどころ深く、歩くのが大変でしたが、何とか山頂に着きました。

しかし展望は全く無しで、記念写真を撮って早々に引き返しました。

雪で覆われた笹の中を一気に下り、冷えた身体を温泉で温め、帰途に着きました。

<2> 那須北温泉 北温泉旅館 (2013年) 32名 (男性13名、女性19名)

12月14～15日に実施しました。初日は、『那須平成の森』自然探勝路を、雪を蹴散らしながら歩き、『駒止の滝』を眺めた後、宿に着き、冷え切った身体を温泉で温めました。

朝起きたら、前日から降り続いていた雪が未だ降っており、宿の主人からは『登山は無理だろう…』と言われましたが、行けるところまで行ってみる…ということで宿を出ました。宿の周りの雪は膝上まであり、登山道は雪に埋まりラッセルが大変でした。急な登りの道を終え、比較的なだらかな尾根になったら、北西風が強くなってきました。先頭の私



は雪と悪戦苦闘しているのが汗だくなのですが、後ろの人達は冷えていたようでした。

ということで、『中の大倉山』山頂までもう少しのところまで引返すことにしました。トレースがあるので、下りはあっという間に宿に戻ることができました。冷えた身体を露天風呂で温め、迎えのバスまで歩きました。圧雪された雪道なので転んだ人もいたようでした。

<3>中央アルプス 千畳敷ホテル (2014年) 32名 (男性14名、女性18名)

12月6～7日に、鎌ヶ谷観光バスで菅の台まで行き、『宿泊費、ロープウェイ代、バス代、山麓のお風呂がセットになった労山会員用格安プラン』を利用して実施しました。

積雪量が想像以上に多くあり、当初予定していた『極楽平』への先行者は無く、トレースのある『乗越浄土』まで行くことにしました。何とか乗越浄土に着いたものの風が強く、更に寒さも半端では無く、思い思いに写真を撮り早々に下ることにしました。ところが、傾斜があまりにも厳しく、後ろ向きで降りる人もいました。当然、登り以上に時間を要した人もいて、最後の人は暗くなってからホテルに戻るという状況でした。お風呂で身体を温め、夕食を賑やかに摂り、翌朝の日の出を期待して眠りに就きました。

翌日は生憎の曇り空で、日の出を見ることはできず、朝食後、早めに下山しました。ロープウェイ山麓駅からバスで下る頃には日も出てきて、車窓より雪景色を眺めながら山麓の温泉に行き、ゆっくり時間を過ごし



た後、帰路に就きました。

乗越浄土への登山の積雪量と傾斜そして寒さは、初心者もいる忘年山行の雪上ハイクとしては、厳し過ぎたかな…と反省しています。

<4> 牡鹿半島 民宿めぐろ (2015年) 33名 (男性18名、女性15名)

12月5～6日に、例年とは趣向を変え、東日本大震災被災地の復興状況視察と漁業支援体験を目的に、宮城県石巻市を訪問しました。

初日は、南三陸町防災対策庁舎、大川小学校、女川町立病院などの被災地を訪れ、当時の被災状況の凄まじさを体感するとともに、犠牲者に手を合わせました。

翌日は、風が強いため船が出ないということで『金華山ハイク』を中止し、『ワカメの袋詰め』作業体験をした後、一部の人を残し『女川原子力PRセンター』を見学しました。

ホテル『ニューさか井』で入浴後、ワカメ袋詰め作業体験をした漁師さんからのご厚意で差し入れていただいた牡蠣を使ってのカキフライ定食を堪能しました。目の前には、海を挟んで金華山が大きく横たわっていました。

往復で利用した常磐自動車道の双葉町や大熊町付近では、荒廃した家々と大きなビニール



袋が田畑に山積みされており、未だに復興が進んでいないことを改めて思い知らされました。帰りは、暗くなってから通過しましたが、家には灯りは全く無く、僅かに電柱の灯がポツンポツンとあるだけでした。

<5> 高峰高原 高峰温泉 (2016年) 34名 (男性15名、女性19名)

12月17～18日に、雲上(雪上)のランプの宿に泊まり、雪景色を見ながらの『雲上の野天風呂』(定員4名)に入り、スノーシューハイクとゲレンデスキーを楽しみました。

『山の雪道は走らない』という鎌ヶ谷観光バスに代わり、初めてコスモスバスを利用しました。いくらかでもバス関連費用を抑えるために、高峰温泉、小諸市内のホテル(ドライバー宿泊用)、バス会社と何度も相談(交渉)し、ドライバー宿泊のホテルのチェックイン&アウト時間も調整しました。

車坂峠までは全く雪が無く、その先のスキー場への道になって、初めて圧雪された雪が残っている程度でした。宿の迎えの雪上車3台に分乗し、スキー場の横を通過して高峰温泉

に着き、各部屋で持ってきた昼食を食べた後、スノーシュー組（池の平）とスキー組に分かれて、思い思いに楽しみ、宿に戻って、露天風呂や内湯に入り冷えた身体を温めました。私を含め、スノーシュー初体験（デビュー）の人が多かったのですが、皆うまく歩けていたように見えました。積雪量は、10cm程で、もっと深い積雪であったら、スノーシューの威力を実感できたのでは…と思います。私は、笹藪に入ってみました。ツボ足よりは歩き易かったような印象を持ちました。

2日目も、ゲレンデスキー組と雪上ハイキング組（高峯山）に分かれ、短い時間でしたが楽しみました。

当初の計画では、スノーシューを宿の人のガイド付きで楽しむつもりでしたが、雪が少ないということで、ツボ足での雪上ハイキングに変更し、宿より軽アイゼンをお借りしました。積雪10cmほどの傾斜の緩い林間の道を、約1時間掛けて着いた高峯山山頂からの展望は素晴らしく、皆歓声を挙げて大展望を満喫しました。青空のもと白く雪を覆った山々を見渡せるのですから、文句の言いようがありません。敢えて要望を書くとすれば、見えている山々の名前を記した展望盤があると良いのですが…。

左から、富士山、八ヶ岳、その後ろに南アルプス（北岳？ 甲斐駒ヶ岳？）、中央アルプス、御嶽、乗鞍岳、槍・穂高連峰、後立山連峰などを見渡せました。

ハイキング組は、早めに宿に戻り温泉を楽しみました。スキー組は、昼食の時間まで目いっぱい滑ってから戻ってきました。事前に希望を募って注文していた昼食を摂りましたが、『石臼挽きそば』を食べた人達からは、『天ぷらか何かが添えられていたら良かったのに…』という不満・愚痴の声が聞こえてきました。

宿の玄関前で記念写真を撮り、雪上車3台に分乗してスキー場まで送って貰いました。雪上車の助手席にニコニコ顔で得意げに乗っている人たちが居ました。良かったね、念願が叶って…。という、私も皆さんのご厚意(?)により助手席に乗ることができました。

予定より45分ほど早くスキー場を出発し、道の駅『雷電くるみの里』でお土産を買い、



小諸ICから高速に入り帰ってきました。高速道路は、ほんの少しの渋滞があった程度で、当初のバス会社の立てた運行計画書より1時間ほど早めに帰ってくることができました。